

令和元年度

埋蔵文化財調査年報



姫路市才村遺跡

令和 2（2020）年 12 月
兵庫県立考古博物館

例 言

1. 本書は令和元年度に兵庫県教育委員会・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した埋蔵文化財調査事業にかかる年報である。
2. 発掘調査及び出土品整理については、兵庫県立考古博物館が調整業務を行い、兵庫県教育委員会が公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託して実施した。それ以外の事業については兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが協力して実施した。
3. 「発掘調査の概要」は旧国別に編集し、播磨、淡路の順に掲載している。
4. 本文中の事業者および事業名は発掘調査実施当時の名称としている。
5. 本文中に使用した遺跡の位置図は、国土地理院発行の電子地形図25,000を使用している。
6. 遺跡調査番号は各年度の発掘調査毎に個別に付した番号であり、令和元年度は「2019」で始まる7桁の数字で表記している。
7. 本書は発掘調査成果を速やかに公表することを目的として刊行するものであり、調査成果についてはまだ十分な検討を終えていない。このため今後の出土品整理により、本書の記載内容と異なる検討結果が得られる可能性がある。その際は後日刊行される発掘調査報告書をもって内容の修正を行うものである。

目 次

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要	1
1 調査の体制	1
2 発掘調査事業の動向	1
3 出土品整理事業の動向	1
4 調査一覧	2
第2章 発掘調査事業の概要	5
1 玉津田中遺跡（神戸市西区）	6
2 宗佐遺跡（加古川市）	10
3 上戸田遺跡（西脇市）	14
4 才村遺跡（姫路市）	16
5 関ノ口遺跡（姫路市）	20
6 前田遺跡（姫路市）	23
7 中筋遺跡（姫路市）	27
8 城山遺跡（太子町）	28
9 樋ノ上遺跡（太子町）	32
10 福田小川原遺跡（たつの市）	35
11 宇山遺跡（洲本市）	39
第3章 出土品整理事業の概要	42
第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）	44
1 事業の概要	44
2 発掘調査の支援	44
3 市町職員研修	45
第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要	46
1 現地説明会の開催	46
2 発掘調査速報展示	46
3 GENBAビューイングの開催	47
4 メインホール展示	47
5 発掘調査速報会の開催	47
6 ひょうごの遺跡の刊行	48
7 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡」の実施	48
8 バックヤード見学ツアーの開催	49

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要

1 調査の体制

平成 24 年度に埋蔵文化財調査部を県立考古博物館から（公財）兵庫県まちづくり技術センター（以下、「センター」いう。）へ移管して以来、国及び県が実施する開発事業に伴う調整、発掘調査計画の策定、事業地内の埋蔵文化財の状況を把握するための分布調査・確認調査・工事立会及び小規模な本発掘調査については県立考古博物館総務部埋蔵文化財課が担当し、大規模な本発掘調査及び出土品整理作業については県教育委員会から委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施している。

それぞれの職員構成は、兵庫県立考古博物館が 4 名、センター埋蔵文化財調査部が昨年度に引き続き調査課 2 課と整理保存課で 24 名である。以下で説明するように、県新規採用職員の派遣、センターでの県 OB 職員・臨時的専門職員の任用により、発掘調査体制を整えた。

センター埋蔵文化財調査部職員の内訳は、13 名が県派遣職員、7 名が県 OB 職員、4 名が臨時的専門職員である。また出土品整理については、29 名の整理技術嘱託員が接合・復元・実測・保存処理等の作業を担当した。

2 発掘調査事業の動向

平成 28 年度は発掘調査量が激減し、平成以降最も少なくなったが、平成 29 年度には一転して増加し、その後は横ばいとなっている、令和元年度も前年度とほぼ同じ量を保っており、これは西日本高速道路株式会社による国道 2 号（第二神明道路）建設や、県東播磨県民局加古川土木事務所による東播磨道路建設など、高規格道路の工事が本格化し、これらに伴う発掘調査が佳境を迎えていることとその他県土木事業に伴う発掘調査が継続的に存在していることによる。

令和元年度に実施した調査は「4 調査一覧」のとおりである。内訳は本発掘調査が 15 件、分布調査が 44 件、確認調査が 33 件、工事立会が 10 件である。本発掘調査のうち 13 件はセンターが、2 件については県立考古博物館が実施した。センターが受託した本発掘調査 13 件の内訳は、国事業・他に伴う調査が 3 件、県事業に伴う調査が 9 件、市事業 1 件で、受託事業の調査面積は約 17,000 m²である。

3 出土品整理事業の動向

出土品整理事業については県教育委員会からの委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施した。国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による北近畿豊岡自動車道建設、同兵庫国道事務所による西脇北バイパス建設など、過去の大型道路事業に伴う出土品整理を継続的に実施するとともに、県道路事業に伴うもの、新温泉町への支援事業として残土処分場整備事業に伴うものを実施し、前年度に比べ事業量は微増した。

令和元年度に実施した出土品整理事業は 21 件、内訳は国事業が 8 件、県事業が 12 件、市町事業（新温泉町）が 1 件である。うち 6 件について発掘調査報告書を刊行した。

4 調査一覧

1 本発掘調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間		調査の概要
2019001	玉津田中遺跡	神戸市西区平野町	西日本高速道路株式会社関西支社	一般国道2号（第二神明道路）建設事業	2019/4/9	～ 2020/2/6	弥生時代～中世の集落跡
2019002	宗佐遺跡（E地区）	加古川市八幡町宗佐	東播磨県民局加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業	2019/4/9	～ 2019/8/8	弥生時代～中世の集落跡
2019003	才村遺跡	姫路市広畑区才	中播磨県民センター姫路土木事務所	（一）広畑青山線社会資本整備総合交付金事業	2019/5/14	～ 2019/8/23	弥生時代～中世の集落跡
2019004	前田遺跡	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	（主）太子御津線社会資本整備総合交付金事業	2019/5/8	～ 2019/7/11	古墳時代～中世の集落跡
2019005	中筋遺跡	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	（主）太子御津線社会資本整備総合交付金事業	2019/5/8	～ 2019/7/11	弥生時代～中世の集落跡
2019008	才村遺跡その2	姫路市広畑区才	中播磨県民センター姫路土木事務所	（一）広畑青山線社会資本整備総合交付金事業	2019/8/9	～ 2020/2/20	弥生時代～中世の集落跡
2019012	樋ノ上遺跡	揖保郡太子町馬場	西播磨県民局龍野土木事務所	防災・安全社会資本整備交付金（国）179号歩道設置事業	2019/11/11	～ 2020/2/28	平安時代～鎌倉時代の集落跡
2019028	前田遺跡その2	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	（主）太子御津線社会資本整備総合交付金事業	2019/8/9	～ 2019/11/21	弥生時代～中世の集落跡
2019024	関ノ口遺跡	姫路市網干区和久	姫路市	中播磨都市計画事業J R網干駅前土地区画整理事業	2019/11/22	～ 2020/2/17	弥生時代～古代の集落跡
2019038	宇山遺跡	洲本市宇山	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	一般国道28号洲本バイパス事業	2019/7/1	～ 2019/10/30	古代～中世の集落跡
2019039	上戸田遺跡	西脇市上戸田	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	一般国道175号西脇北バイパス事業	2019/11/11	～ 2020/2/6	弥生時代～古墳時代、平安時代～鎌倉時代の集落跡
2019040	柏原旧城下町	丹波市柏原町柏原	大阪高等裁判所	神戸地家裁柏原支部仮庁舎新営工事	2019/5/28	～ 2019/9/24	近世の屋敷跡
2019042	城山遺跡	揖保郡太子町鵜	西播磨県民局龍野土木事務所	防災・安全社会資本整備交付金（国）179号歩道設置事業	2019/11/11	～ 2020/2/28	弥生時代～飛鳥時代、平安時代～鎌倉時代の集落跡
2019066	福田小川原遺跡	たつの市誉田町福田	西播磨県民局龍野土木事務所	防災・安全社会資本整備交付金（国）179号歩道設置事業	2019/11/11	～ 2020/2/28	弥生時代～中世の集落跡
2019077	サルガク遺跡	神崎郡市川町澤	中播磨県民センター姫路土木事務所福崎事業所	（一）長谷市川線道路改良工事	2020/2/6	～ 2020/2/28	中世～近世の集落

2-1 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間		調査の概要
2019009		三木市細川町豊地	日本郵政株式会社	豊地郵便局新築工事	2019/11/19	～ 2019/11/19	埋蔵文化財なし
2019011	湯山城跡	神戸市北区有馬町宇落葉山	神戸県民センター六甲治山事務所	復旧治山事業	2019/4/8	～ 2019/4/8	埋蔵文化財なし
2019014		美方郡香美町村岡区大糠	但馬県民局新温泉土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業（急）高井（2）	2019/4/17	～ 2019/4/17	埋蔵文化財なし
2019015	美方・宮ノ前遺跡	美方郡香美町小代区夷山	但馬県民局新温泉土木事務所	（国）4 8 2 号大谷B P II道路改築事業	2019/4/18	～ 2019/4/18	一部、埋蔵文化財あり
2019018	竹田城周辺遺跡	朝来市和田山町安井白屋	但馬県民局朝来農林振興事務所	林地荒廃防止事業	2019/5/8	～ 2019/5/8	埋蔵文化財なし
2019020	下山脇遺跡	佐用郡佐用町山脇字水木谷	西播磨県民局光都農林振興事務所	予防治山事業	2019/4/23	～ 2019/4/23	一部、埋蔵文化財あり
2019022		豊岡市上佐野	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	北近畿自動車道豊岡道路4号工事用道路	2019/5/20	～ 2019/5/20	埋蔵文化財なし
2019026		三木市豊地	日本郵政株式会社	豊地郵便局新築工事	2019/5/31	～ 2019/6/11	一部、埋蔵文化財あり
2019030	上津遺跡・宅原遺跡群	神戸市北区長尾町長尾	企業庁猪名川広域水道事務所	三田西宮連絡管送水管布設工事（長尾工区）	2019/5/21	～ 2019/5/21	一部、埋蔵文化財あり
2019032		姫路市飾東町城山	兵庫森林管理署	城山山腹工事	2019/6/13	～ 2019/6/13	埋蔵文化財なし
2019034		神戸市東灘区本山町田辺	国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所	天井川水系座福ヶ原第二堰堤工事	2019/6/25	～ 2019/6/25	埋蔵文化財なし
2019035		川辺郡猪名川町上野	阪神北県民局阪神農林振興事務所	県営ため池等整備事業上野大池地区	2019/7/1	～ 2019/7/1	埋蔵文化財なし
2019036		たつの市龍野町片山	西播磨県民局龍野土木事務所	山根川総合防災事業	2019/8/1	～ 2019/8/1	埋蔵文化財なし
2019045		神戸市長田区浪松町	企画県民部企画財政局	西神戸集合庁舎長寿命化改修	2019/8/20	～ 2019/8/20	埋蔵文化財なし
2019046	北中遺跡	丹波市柏原町北中	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 北中I地区	2019/6/10	～ 2019/6/10	一部、埋蔵文化財あり

2-2 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2019048	横田遺跡	丹波市柏原町北中	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 北中Ⅰ地区	2019/6/10～2019/6/10	一部、埋蔵文化財あり
2019050		丹波市水上町北油良字アイ	丹波県民局丹波農林振興事務所	復旧治山事業	2019/6/5～2019/6/5	一部、埋蔵文化財あり
2019051		丹波市水上町佐野字東山根	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2019/6/5～2019/6/5	一部、埋蔵文化財あり
2019052	稲畑 1 ～11号墳	丹波市水上町稲畑字月林	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2019/6/5～2019/10/18	一部、埋蔵文化財あり
2019053		丹波市山南町和田字城ノ谷	丹波県民局丹波農林振興事務所	予防治山事業	2019/6/5～2019/9/25	埋蔵文化財なし
2019054		豊岡市但東町中山	但馬県民局豊岡土木事務所	砂防事業（砂）太田川左支溪第3川	2019/8/2～2019/8/2	埋蔵文化財なし
2019057		姫路市飾磨区英賀保	近畿財務局神戸財務事務所	地下埋設物調査	2019/9/26～2019/9/27	埋蔵文化財なし
2019058	横坂遺跡	佐用町横坂字井科	西日本高速道路(株)関西支社	中国自動車道佐用ⅠC他Ⅰ箇所雪水施設新築工事	2019/10/3～2019/10/3	埋蔵文化財なし
2019060		姫路市飾磨町志吹	中播磨県民センター姫路土地改良センター	農村地域防災減災事業	2019/10/8～2019/10/8	一部、埋蔵文化財あり
2019061		美方郡新温泉町居組	但馬県民局新温泉土木事務所	一般国道178号浜坂道路Ⅱ期事業 居組ⅠC改良工事	2019/10/1～2019/10/1	埋蔵文化財なし
2019067	生野鉱山	朝来市朝来町	但馬県民局養父土木事務所	通常砂防事業寺の上川	2019/11/1～2019/11/1	埋蔵文化財あり
2019068		姫路市広畑区夢前台	中播磨県民センター姫路土木事務所	通常砂防事業夢前台西川	2019/11/6～2019/11/6	埋蔵文化財なし
2019075	松尾寺跡	掛保郡太子町松尾	西播磨県民局龍野土木事務所	通常砂防事業（砂）松尾川	2019/12/23～2019/12/23	埋蔵文化財なし
2019078		朝来市和田山町寺内	但馬県民局朝来農林振興事務所	緊急予防治山事業	2020/1/10～2020/1/10	埋蔵文化財なし
2019079		養父市上筒	但馬県民局朝来農林振興事務所	林地荒廃防止事業	2020/1/10～2020/1/10	埋蔵文化財なし
2019082		三木市志染町井上	日本郵政株式会社	三木井上郵便局サイン工事	2020/1/11～2020/1/11	埋蔵文化財なし
2019083		淡路市仮屋～谷	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	国道28号仮屋地区歩道整備	2020/1/17～2020/1/17	埋蔵文化財なし
2019091	オノ木西遺跡	養父市小路頃	但馬県民局養父土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 小路頃（1）地区	2020/2/4～2020/2/4	埋蔵文化財あり
2019092	赤道遺跡	養父市出合	但馬県民局養父土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 出合（2）地区	2020/2/4～2020/2/4	一部、埋蔵文化財あり
2019093		朝来市和田山町秋葉台	但馬県民局養父土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 秋葉台（2）地区	2020/2/4～2020/2/4	埋蔵文化財なし
2019094		朝来市和田山町林垣	但馬県民局養父土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業（急）内海（6）	2020/2/4～2020/2/4	埋蔵文化財なし
2019096		佐用郡佐用町才金	西播磨県民局光都土木事務所	（一）宮原力万線道路改良事業	2020/3/3～2020/3/3	埋蔵文化財なし
2019097		佐用郡佐用町下秋里	西播磨県民局光都土木事務所	（一）吉永下徳久線道路改良事業	2020/3/3～2020/3/3	埋蔵文化財なし
2019098		佐用郡佐用町大畠	西播磨県民局光都土木事務所	（一）下庄佐用線道路改良事業	2020/3/3～2020/3/3	埋蔵文化財なし
2019099	アシキリ古墳	豊岡市城崎町桃島・湯島	但馬県民局豊岡土木事務所	（主）豊岡竹野線桃島BP道路改良工事	2020/1/15～2020/1/15	一部、埋蔵文化財あり
2019100		美方郡香美町鑑	但馬県民局新温泉土木事務所	砂防えん堤工事	2020/3/17～2020/3/17	一部、埋蔵文化財あり
2019101		美方郡香美町村岡区大糠	但馬県民局新温泉土木事務所	通常砂防事業（砂）大糠川	2020/3/17～2020/3/17	埋蔵文化財あり
2019102		美方郡香美町村岡区大野	但馬県民局新温泉土木事務所	旧傾斜地崩壊対策事業（急）大野	2020/3/16～2020/3/16	埋蔵文化財なし
2019103		豊岡市上陰	但馬県民局豊岡土木事務所	通常砂防事業（砂）上陰東谷Ⅰ	2020/3/16～2020/3/16	埋蔵文化財なし

3-1 確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2019006	広峯 1 号墳他	豊岡市上佐野	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	一般国道483号豊岡道路	2019/9/9～2019/11/20	埋蔵文化財あり
2019007	口酒井蔵川河原遺跡	伊丹市口酒井字大西	国土交通省近畿地方整備局篠名川河川事務所	森本地区他河道掘削他工事	2019/12/9～2019/12/9	埋蔵文化財なし
2019013	山田奥窯跡	赤穂市有年牟礼	西播磨県民局光都農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2019/4/22～2019/4/25	埋蔵文化財なし
2019016	明石公園遺跡	明石市明石公園	東播磨県民局加古川土木事務所明石事業課	明石公園整備（桜回廊）	2019/5/8～2019/5/8	埋蔵文化財なし
2019017	鞠散布地	朝来市山東町滝田字鞠	但馬県民局朝来農林振興事務所	県単独緊急防災事業（30単防第23号）	2019/5/8～2019/5/8	埋蔵文化財なし

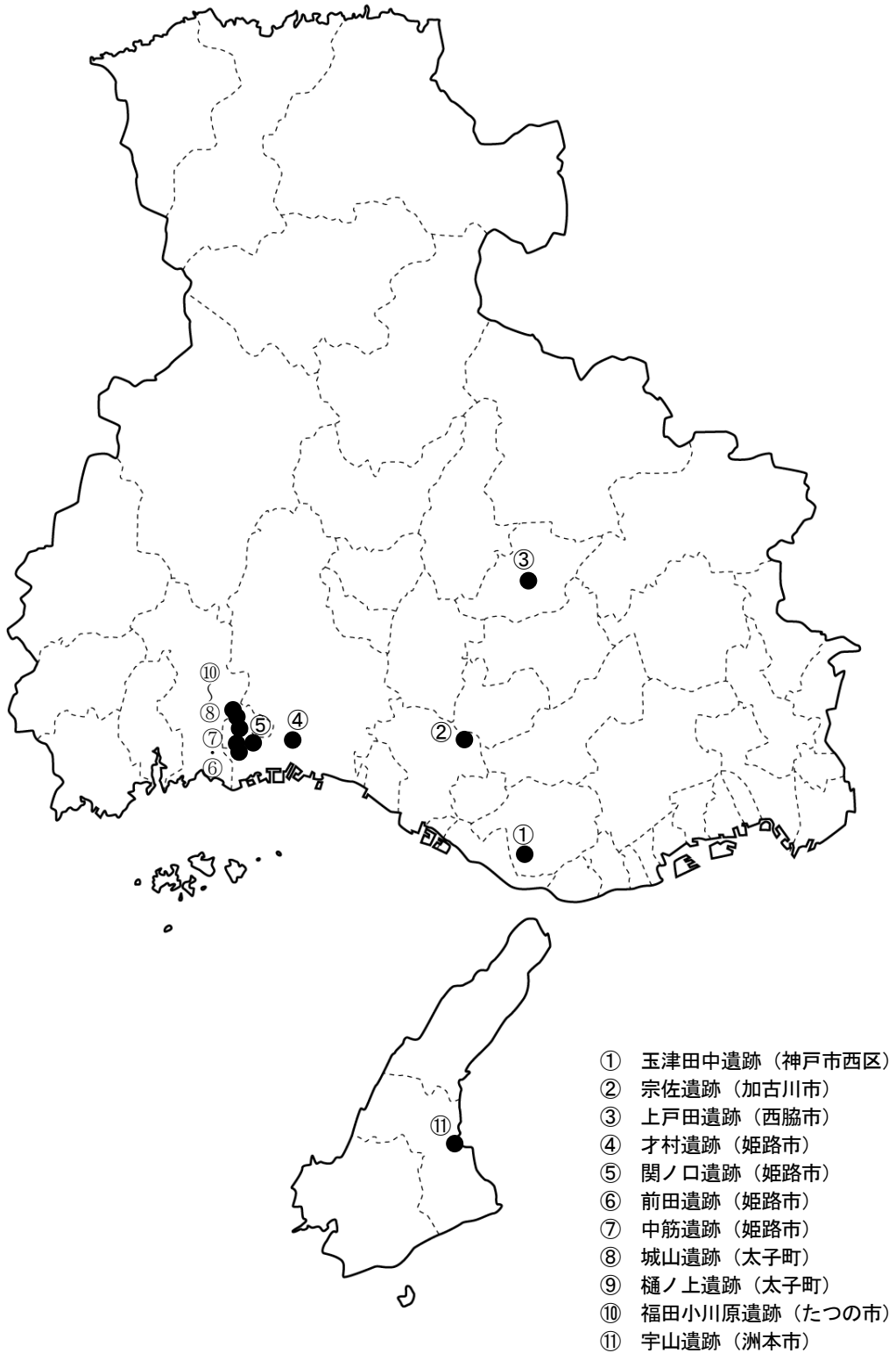
3-2 確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2019021	明石公園遺跡	明石市明石公園	東播磨県民局加古川土木事務所	明石公園整備(桜回廊)	2019/5/20 ～ 2019/5/21	埋蔵文化財なし
2019025	前田遺跡	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	(主) 太子御津線社会資本整備総合交付金事業	2019/5/27 ～ 2019/5/28	埋蔵文化財あり
2019029	下山脇遺跡	佐用郡佐用町山脇字水木谷	西播磨県民局光都農林振興事務所	予防治山事業	2019/6/12 ～ 2019/6/12	埋蔵文化財なし
2019031		豊岡市城崎町飯谷	但馬県民局豊岡土木事務所	急傾斜地崩壊対策工事その1	2019/7/17 ～ 2019/7/17	埋蔵文化財なし
2019033	鴨野城跡	丹波市柏原町	丹波県民局丹波土木事務所	(一) 稲畑柏原線道路改築事業	2019/6/24 ～ 2019/6/24	埋蔵文化財なし
2019037	佐野古墳群	丹波市氷上町佐野	丹波県民局丹波土木事務所	土砂災害対策事業(砂) 佐野谷川砂防施設修繕工事	2019/6/21 ～ 2019/6/21	埋蔵文化財あり
2019044	旧城内遺跡	洲本市山手1-1	大阪国税局	洲本税務署外構バリアフリー化改修工事	2019/8/3 ～ 2019/8/3	埋蔵文化財なし
2019047	青田遺跡	丹波市山南町青田	丹波県民局丹波土木事務所	篠山山南線道路改良	2019/9/9 ～ 2019/9/9	埋蔵文化財なし
2019049	生野鉱山	朝来市生野町奥銀谷	但馬県民局養父土木事務所	(砂) ウルン谷 通常砂防事業	2019/9/19 ～ 2019/9/19	埋蔵文化財あり
2019055	袋尻遺跡	たつの市揖保川町袋尻	西播磨県民局龍野土木事務所	(一) 中島揖保川線 道路保全防災安全交付金事業	2019/10/24 ～ 2019/10/24	埋蔵文化財なし
2019056	宇山遺跡	洲本市宇山	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	一般国道28号洲本バイパス事業	2019/7/23 ～ 2019/7/23	埋蔵文化財あり
2019059	サルガク遺跡	神崎郡市川町澤	中播磨県民センター姫路土木事務所	道路改良工事	2019/11/15 ～ 2019/11/15	埋蔵文化財あり
2019064	上津遺跡	神戸市北区長尾町上津	企業庁猪名川広域水道事務所	三田西宮連絡管送水管布設工事(長尾工区)	2020/3/18 ～ 2020/3/26	埋蔵文化財あり
2019065	宅原遺跡群	神戸市北区長尾町上津	企業庁猪名川広域水道事務所	三田西宮連絡管送水管布設工事(長尾工区)	2020/3/18 ～ 2020/3/26	埋蔵文化財あり
2019069	萱刈坂1～5号墳	丹波市柏原町鶴野	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急防災事業 31単防(緊) 第38-2号	2019/11/19 ～ 2019/11/19	埋蔵文化財なし
2019070	(仮称) 継遺跡	姫路市継	中播磨県民センター姫路土木事務所	八家川洪水調節池整備事業	2020/1/14 ～ 2020/2/14	埋蔵文化財あり
2019071	小野藩陣屋遺跡	小野市西本町	兵庫県教育委員会	エレベーター棟の新設工事	2019/12/3 ～ 2019/12/24	埋蔵文化財なし
2019072	小谷城関連遺跡	加西市北条町小谷	北播磨県民局加東土木事務所	(砂) 小谷川砂防えん堤工事(その1)	2020/2/21 ～ 2020/2/21	埋蔵文化財あり
2019074		相生市那波	西播磨県民局光都土木事務所	(一) 竜泉那波線	2020/2/3 ～ 2020/2/3	埋蔵文化財なし
2019076	才村遺跡	姫路市広畑区才	中播磨県民センター姫路土木事務所	(一) 広畑青山線社会資本整備総合交付金事業	2020/6/25 ～ 2020/6/28	埋蔵文化財あり
2019080	古堂遺跡	丹波篠山市今田町上立杭	丹波県民局丹波土木事務所	下立杭柏原線	2020/1/27 ～ 2020/1/27	埋蔵文化財なし
2019081	横坂遺跡	佐用郡佐用町横坂	ネクスコ西日本(株)	中国自動車道佐用IC他1箇所雪氷施設新築工事	2020/1/14 ～ 2020/1/14	埋蔵文化財なし
2019084	香呂山遺跡	高砂市阿弥陀町	加古川流域土地改良事務所	弟池堤体工事	2020/1/23 ～ 2020/1/23	埋蔵文化財なし
2019085		養父市八鹿町舞狂	但馬県民局養父土木事務所	(砂) 若宮川 通常砂防事業	2020/2/13 ～ 2020/2/13	埋蔵文化財なし
2019087	辻ヶ内遺跡	赤穂郡上郡町	考古博物館	古代官道調査研究	2020/2/19 ～ 2020/3/19	埋蔵文化財あり
2019088		養父市八鹿町舞狂	但馬県民局養父土木事務所	砂防えん堤工事(砂) 若宮川	2020/2/16 ～ 2020/2/16	埋蔵文化財なし
2019090	稲畑古墳群	丹波市氷上町稲畑	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2020/2/17 ～ 2020/2/17	埋蔵文化財なし
2019095		洲本市五色町島飼中	日本郵政株式会社	看板類コーポレートカラー等変更工事	2020/2/29 ～ 2020/2/29	埋蔵文化財なし

4 工事立会

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間	調査の概要
2019019	高倉仁位間曲輪群	佐用郡佐用町仁位字丸山	西播磨県民局光都農林振興事務所	治山施設災害復旧事業	2019/4/23 ～ 2019/8/2	埋蔵文化財なし
2019023	遠坂遺跡	丹波市青垣町山垣	丹波県民局丹波土木事務所	歩道リニューアル工事	2019/5/24 ～ 2019/7/16	埋蔵文化財なし
2019027	緑ヶ丘遺跡	伊丹市緑ヶ丘	陸上自衛隊伊丹駐屯地	伊丹(元) 倉庫新設工事	2019/10/29 ～ 2019/11/5	埋蔵文化財なし
2019041	明石城跡	明石市明石公園	東播磨県民局加古川土木事務所	明石公園整備(桜回廊)	2019/7/23 ～ 2019/7/23	埋蔵文化財なし
2019043	向山遺跡	丹波市市島町北岡本	丹波県民局丹波土木事務所	国道175号道路改良工事	2019/8/5 ～ 2019/8/5	埋蔵文化財なし
2019062	生野鉱山	朝来市生野町奥銀谷	兵庫県みどり公社県北事務所	里山防災林整備事業	2019/10/8 ～ 2019/10/8	埋蔵文化財なし
2019063	前田遺跡	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	(主) 太子御津線社会資本整備総合交付金事業	2019/10/18 ～ 2019/10/23	埋蔵文化財なし
2019073	大新屋遺跡	丹波市柏原町大新屋	丹波県民局丹波土木事務所	(一) 稲畑柏原線歩道リニューアル事業	2019/12/9 ～ 2019/12/9	埋蔵文化財なし
2019086	明石城跡	明石市明石公園	東播磨県民局加古川土木事務所	明石公園整備(桜回廊)	2020/2/17 ～ 2020/2/17	埋蔵文化財なし
2019089	若王寺遺跡	尼崎市若王子三丁目11-46	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	フェンス改修	2020/1/27 ～ 2020/1/27	埋蔵文化財なし

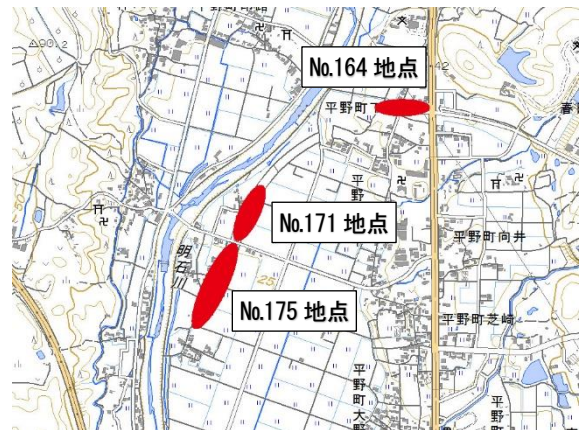
第2章 発掘調査事業の概要



たまつたなか
1 玉津田中遺跡

遺跡調査番号 2019001

所在地 神戸市西区平野町
事業者名 西日本高速道路㈱関西支社
第二神明道路事務所
事業名 一般国道2号（第二神明道路）建設事業
担当者 山田清朝・別府洋二・青山 航・
園原悠斗・野田優人・三好愛美
種 別 本発掘調査
期 間 平成31年4月9日
～令和2年2月6日
面 積 6,242 m²



遺跡の位置（「東二見」）

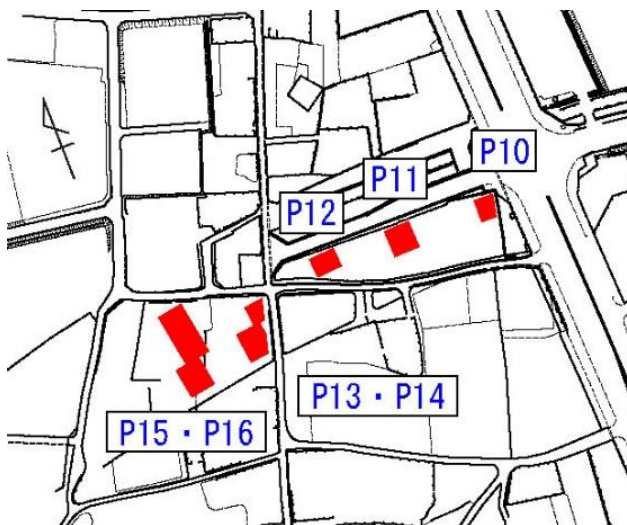
1 調査に至る経過

西日本高速道路（株）関西支社第二神明道路事務所による一般国道2号（第二神明道路）の建設に伴い、県教育委員会が平成30年度に確認調査を実施した。その結果、No.164地点・No.167地点・No.171地点・No.175地点の4地点で埋蔵文化財が包蔵されていることが明らかとなった。本年度はNo.164地点・No.171地点・No.175地点の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

【No.164 地点】

国道175号線に面するNo.164地点では、橋脚建設予定地の5箇所で調査を行った。当地点は明石川左岸の河岸段丘上に立地する。調査の結果、遺構・遺物の数は希薄であったものの、古代から中世かけての土坑・溝・柱穴が検出した。とりわけP11区では、土坑内より東播系須恵器の甕や碗、皿、土師器の皿などが出土した。時期は11世紀後半と考えられる。



No.164 地点全体図



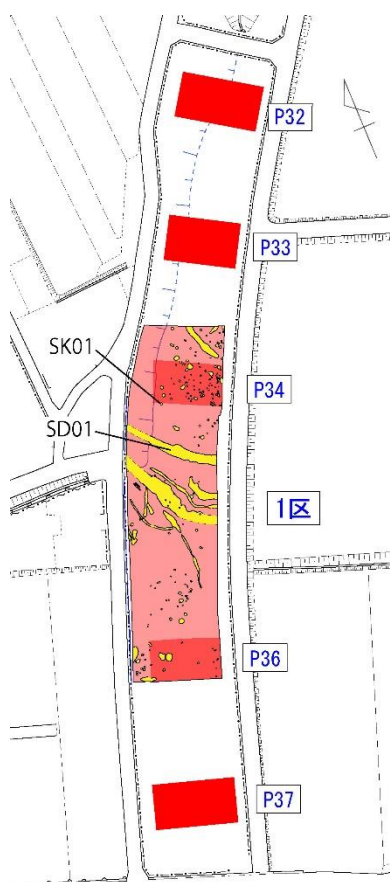
P11 区 土坑内土器出土状況

【No.171 地点】

No.175 地点の北側に位置するNo.171 地点では、橋脚建設予定地の 5 箇所及び調整池建設予定地の 1 箇所調査を行った。調整池建設予定地の 1 区は追加の調査であるため、先行して調査を行った P34 区と P36 区に重複している。調査の結果、1 面で中世の遺構と遺物が、2 面で弥生時代前期の遺構と遺物を検出した。とりわけ、2 面で検出した弥生時代前期の遺構と遺物に良好な資料が見受けられる。

P32 区では、遺構の密度は閑散ながら土坑・溝・柱穴を検出した。このうち溝は、調査区北東隅で検出し、東側及び北東側は調査区外へと広がっており、西側の一部は後世の攪乱を受けている。よって、検出できたのは全体のごく一部に過ぎない。そのため、土坑である可能性も考えられる。この溝からは、弥生時代前期～中期初頭にかけての壺や甕と共に、打製石包丁の破片が出土している。この打製石包丁は、香川県の金山産サヌカイトが用いられている。端部に抉りを設けており、瀬戸内海沿岸地域に多い形状である。また、調査区中央付近から西側に向けて、完新世段丘崖が検出している。段丘崖の高さは 80 cm である。この段丘崖は、P33 区・P34 区・1 区の西側でも検出している。

P33 区と P34 区では、土坑・溝・柱穴を検出した。このうち、土坑からは弥生時代前期後半頃の壺・甕・蓋がまとまって出土している。これらの土器は、完形もしくは完形であったものが土圧によって押しつぶされた状態で出土している。そのため、完形の状態で廃棄されていた可能性が高い。また、P34 区北側の隣り合う土坑からは、拳大～人頭大の角礫と共に、土器・両刃石斧・砥石などが出土している。日常具の廃棄土坑と考えられる。



No.171 地点全体図



P33 区 土坑内土器出土状況



P34 区 土坑内土器出土状況

【No.171 地点 1 区】

1 面目で検出した遺構は、掘立柱建物跡 5 棟、溝 4 条、土坑 17 基、柱穴 227 基である。遺物は、遺構面検出時及び遺構内より、中世の須恵器と土師器が出土している。掘立柱建物は、5 棟とも調査区の南側、P36 区と重複する箇所検出している。この掘立柱建物の多くは、南北方向に主軸を持ち、規格性が高い。また、この東側には掘立柱建物群の主軸と方向を同じくする溝を検出している。以上のことから、屋敷地の可能性が考えられる。その他の遺構は、調査区中央付近で検出した SD01 を境に、南側に集中している。この溝を境にして北側は微高地が形成されているが、中世の段階には利用されていなかったと考えられる。



1 区 SK01 石棒・土器出土状況

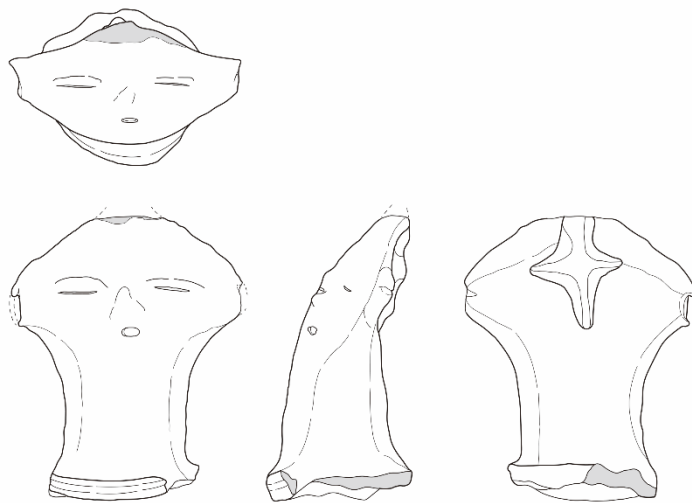


1 区 土器棺墓検出状況

2 面目で検出した遺構は、溝 12 条、土坑 28 基、柱穴 84 基である。溝は、調査区中央付近でまとまって検出した。特に SD01 は、幅 4.5m、深さ 0.8m と規模が大きく、多量の弥生土器が出土した。また、SD01 の最上層からは磨製石包丁が、最下層からは土偶が出土した。土坑は、多くは上述の SD01 を境に北側で検出している。とりわけ SK01 からは、土器と重なり合った状態で結晶片岩製の

石棒が出土している。また、調査区北東隅では、隣り合う二つの土坑から弥生土器が据え置かれた状態で出土しており、これらは土器棺墓と考えられる。付近の土坑からは、在地産の甕と共に生駒西麓産の広口壺が出土している。一方で、SD01 の南側では、すり鉢状の落ち込みを検出しており、この落ち込み内からは土坑を 4 基検出しており、貯蔵穴と考えられる。

柱穴は、土坑がまとまって見つかった SD01 の北側と、落ち込み内に存在する。しかし、建物に復元できる並びは確認されていない。



1 区 SD01 出土土偶 (S=1/2)

【No.175 地点】

No.171 地点の南側に位置するNo.175 地点では、橋脚建設予定地の 17 箇所で調査を行った。調査の結果、1 面目で中世～近世の遺構と遺物が、2 面目で弥生時代後期～古代の遺構と遺物を検出した。1 面目では、P48 区において、土坑の中から 15 世紀～16 世紀初頭の土師質の播鉢や塀、羽釜、甕と、東播系須恵器の鉢がまとまって出土した。付近の P46 区や P47 東区でも同様に土師器や須恵器が遺構内より出土している。これらのことから、中世後半ではこのあたり一帯に集落が広がっ



P48 区 土坑内土器出土状況

ていたと考えられる。また、2 面目では多くの調査区で水田跡の存在が明らかになり、P41 区と P50 区では畦畔を検出した。出土遺物が僅少のため時期の特定が困難であるが、古墳時代から古代にかけての水田跡であると考えられる。また、2 面目の遺構面検出時に古墳時代から古代の須恵器がいくつかの調査区で出土していることもその証左となる。

3 まとめ

No.164 地点では、土坑や柱穴に伴って、古代から中世の須恵器・土師器が出土している。よって、明石川流域左岸の河岸段丘上には、古代から中世に集落が形成されていたことが明らかとなった。

No.171 地点では、全ての調査区で中世及び弥生時代の遺構と遺物を検出した。中世の遺構及び遺物は、1 区の SD01 を境に、南側に集中している。遺構の大半は柱穴であり、5 棟の掘立柱建物跡を復原した。そのため、中世は SD01 から南側に居住域が展開されていたことが明らかとなった。

2 面目では弥生時代前期の遺跡が広がっていることが明らかとなった。とくに SD01 から出土した土偶や、SK01 から出土した石棒は、縄文時代に起源を持つ遺物である。これらの遺物が弥生時代前期の遺物と共に出土した点は、縄文文化から弥生文化への移行期の様相を顕著に表していると言えよう。また、P32 区～P36 区、1 区北側では、土坑や溝からまとまって弥生土器や石器が出土しており、居住域や墓域の一部であると考えられる。これらの密な遺構の分布は、SD01 を境界として捉えることができる。よって SD01 は集落の中心部とその周辺を分ける区画溝の役割を果たしていた可能性が高い。

No.175 地点では、弥生時代後期から近世にかけての遺構と遺物を検出した。特に中世後半では、一帯に集落が広がっていたことが明らかとなった。また 2 面目では古墳時代から古代にかけての水田面を検出した。そのため、No.175 地点では古墳時代から古代にかけて水田利用が行われ、中世になると居住域として展開していたことが明らかとなった。

2 宗佐遺跡

遺跡調査番号 2019002

所在地 加古川市八幡町宗佐
事業者名 兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所
事業名 東播磨南北道路北工区
(主要地方道加古川小野線) 道路改築事業
担当者 岸本一宏・垣内拓郎
野田優人・松崎光伸
種別 本発掘調査
期間 平成31年4月9日～令和元年8月8日
面積 3,658 m²



遺跡の位置（「三木」）

1 調査に至る経過

兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所は、加古川市八幡町宗佐において、東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業を行っている。事業地では、平成28・29年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査（遺跡調査番号：2016157・2017058）の結果、遺跡の存在が明らかとなったため、平成29年度にA・B地区（遺跡調査番号：2017063・2017093）の本発掘調査を実施した。そして、平成30年度上半期には、A・B地区の北側にC地区の本発掘調査（遺跡調査番号：2018005）を実施するとともにC地区の南北側の確認調査（遺跡調査番号：2018007）もおこなって遺跡の調査範囲を確定し、下半期にはC地区の北側に隣接するD地区の本発掘調査（遺跡調査番号：2018036）を実施した。さらに、同年度には用水路や市道の撤去及び付替工事に伴って兵庫県教育委員会が部分的に調査（遺跡調査番号：2018052）を行っている。今回は、B・C地区の間で南北に隣接するE地区について本発掘調査を実施した。本調査は、平成29年度から実施してきた当該事業に伴う発掘調査の最後となる。

2 調査の概要

宗佐遺跡は、印南野台地の北西裾に位置し、台地の中位段丘面の開析谷に形成された緩やかに傾斜する扇状地上に立地する。遺跡の中央にあたるE地区は、東西約80m、南北約37～76mの規模である。調査区内の地形は、台地から北西方向に延びる小尾根の裾が西～北側に低くなって広がり、小尾根の南側は段丘崖となっている。段丘崖は南東調査区外へ高くなって続き、調査区西側では尾根の傾斜とともに段差は解消され、段丘崖より南はB地区と同様に平坦になる。小尾根は大阪層群（または神戸層群）で形成され、その北から西側には、東側調査区外にある台地西側に刻まれた小開析谷から供給された砂礫層が堆積して尾根裾を形成しており、最上層はC・D地区とも対応する黄褐色土層が堆積し、その上面で遺構を検出した。小尾根や尾根裾の旧地形は、尾根稜線に敷設された市道や、谷奥にある溜め池の放水用水路（幅6m）など、近現代に大きく改変されている。そのため、遺構はこれらの地形上では表土直下で疎らである。一方、調査区南側の段丘崖裾の平坦部や北西側には埋没旧河道が存在し、その上部には概ね上下2層の遺物を包含する土壌層が堆積する。それらを除去した第1面（上層遺構）と第2面（下層遺構）の計2面で遺構を検出した。遺構面は隣接するA・B・C地区と対応する。第1面では平安時代後期～中世、第2面では弥生時代～古墳時代の遺構を検出したが、調査区北側から北東部の黄

褐色土層上面では、同一面で両時期の遺構を検出した。以下、各面・時期に分けて主たる遺構・遺物について報告する。

【第1面：平安時代後期～中世の遺構・遺物】

掘立柱建物跡3棟、柱穴群、木棺墓1基、推定火葬跡2基、炉跡1基、焼土坑2基、溝2条を検出した。掘立柱建物跡はSB01～SB03の3棟が復元でき、SB01、SB03は調査区南側の平坦部で、SB02は調査区北西部の一段高くなった部分で見つかっている。SB02の北東付近には、炉跡SX62を検出し、近くのSD40から碗型鉄滓が見つかったほか、SD19からはフイゴの羽口が出土しており、野鍛冶の痕跡と考えられる。SB02と同位置、SD40の上面に焼土や炭が全体に含まれるSX50・SX60を検出した。SX60からは須恵器碗や白磁碗とともに被熱痕がある粘土塊が見つかっており、火葬跡と推定される。SB01の東に近接して平面方形（約1m四方）の焼土坑SX212・SX214が重なって見つかった。いずれも埋土に焼土、壁際に炭化物が含まれ、壁面に被熱痕が認められるが、土器小片が出土するのみでその性格は不明である。これらとは少し離れて調査区北東の微高地では、建物は復元できなかったが柱穴群が見つかっており、同位置に木棺墓SX170を検出した。なお、調査区北西部では、C・D地区で見つかった戦国時代に埋没した流路から溢流した洪水砂が、土壌層の上部を約60～70cmの厚さで水平に堆積する状況が認められた。

【第2面：弥生時代～古墳時代初頭の遺構・遺物】

竪穴住居跡3棟、溝群・流路・湿地状地形を検出した。竪穴住居は散在しており、平面円形のSH201が調査区南隅の段丘崖の裾に、平面円形のSH230が調査区北東隅の谷側に、平面方形のSH65が調査区北隅の谷側に位置する。いずれも弥生時代後期～古墳時代初頭に位置付けられる。南半部のみ検出したSH65は、残る北半部はC地区で調査しているが、SH201については南側の埋土が極めて浅いためB地区では確認されていない。調査区南側の段丘崖裾では、埋没旧河道の砂礫層の上面に形成された溝を10条以上確認しており、埋土からは弥生時代後期～古墳時代初頭の土器が多く出土している。また、段丘崖裾の南東から北西方向に走る流路SD202は、台地から西に延びる小尾根を切断して流れる。下層の砂礫には弥生時代の土器片が含まれる。調査区北西部のSH65の西側は尾根裾の砂礫層が埋没旧河道によって削られて小さな崖状になり、SD202の東側との間で湿地状地形を呈する。その堆積層からは弥生時代後期～古墳時代初頭の土器の破片が多く出土している。

3 まとめ

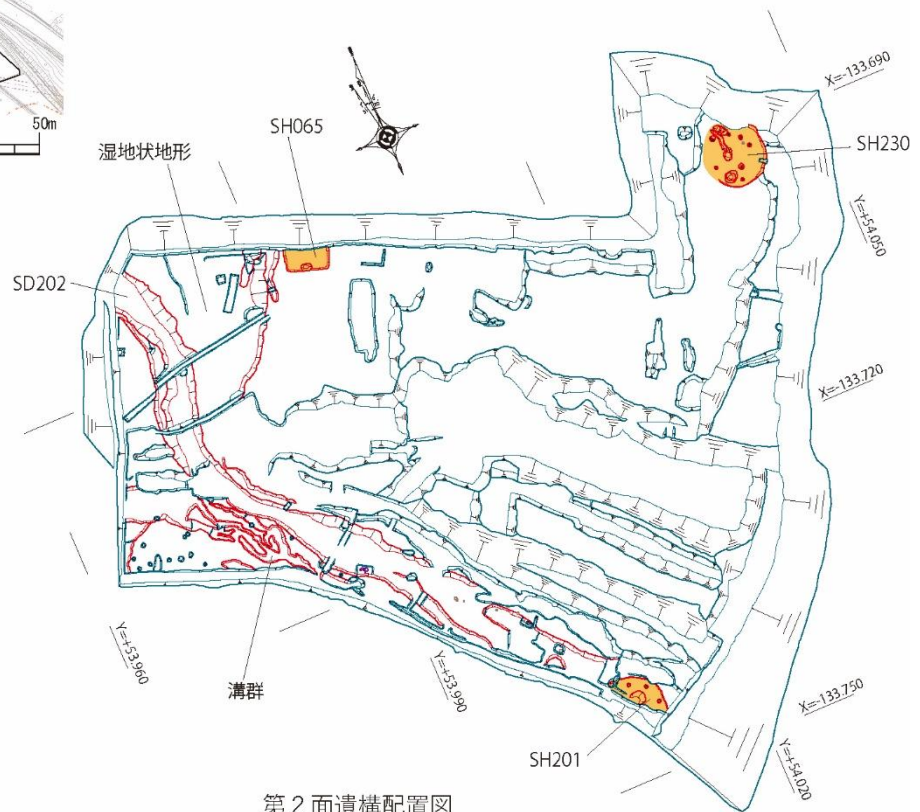
E地区の調査では、東側から延びる印南野台地の尾根と段丘崖の裾に平安時代後期～中世、弥生時代後期～古墳時代初頭の集落が広がることが確認できた。平安時代後期～中世の遺構として掘立柱建物跡の他、炉跡、墓跡などを検出したことから、当遺跡における多様な土地の利用方法が明らかとなった。また、C・D地区で認められた谷川から溢流した戦国時代の洪水砂は、E地区の北西部分に水平に堆積している状況も確認できた。そして、弥生時代後期～古墳時代初頭では、竪穴住居跡はE区では散在するも既往の成果を勘案すると、南隅住居はB地区、北隅住居はC地区の住居跡の集中部分の一角を占めることがわかり、北東隅の住居についても、C地区東部で検出された床面まで削平を受けた竪穴住居跡と近接する。宗佐遺跡で見つかった竪穴住居跡は今回の調査を含めて計14棟となり、弥生時代後期～古墳時代初頭にわたって、印南野台地の段丘裾に数棟ずつ5箇所ほどに分かれて営まれたことが明らかになった。



第1面遺構配置図



調査区位置図



第2面遺構配置図

E地区 調査区位置図と遺構配置図



調査区遠景（西から）



第1面全景俯瞰（写真上方が北）



第1面全景（南から）



第2面全景俯瞰（写真上方が北）



第1面 SX60 全景（東から）



第2面 SH65 全景（南から）



調査区西壁断面（東から）



第2面 SD202 近景（南から）

かみとだ
3 上戸田遺跡

遺跡調査番号 2019039

所在地 西脇市上戸田
事業者名 国土交通省 近畿地方整備局
兵庫国道事務所
事業名 一般国道 175 号西脇北バイパス事業
担当者 別府洋二・野田優人
種別 本発掘調査
期間 令和元年 11 月 11 日～令和 2 年 2 月 6 日
面積 790 m²



遺跡の位置（「西脇」）

1 調査に至る経過

西脇北バイパス事業に関連し、これまで大門畑瀬遺跡、大伏北山遺跡、津万井近世窯跡、津万遺跡などの調査が行われてきた。これらの調査により弥生時代後期から古墳時代はじめにかけて、微高地上で集落が営まれていたこと、中世には新たに開発が進み、集落が広がっていることが明らかになった。

上戸田遺跡は、上記の遺跡群の南端に位置し、平成 30 年度に当該事業地内において確認調査（遺跡調査番号 2018019）を実施した。その結果、遺跡が広がることが明らかとなり、本発掘調査を行うこととなった。



調査区遠景（赤囲線が調査区）

2 調査の概要

調査区の 200m ほど東には加古川が流れており、南へと緩やかに傾斜する地形に遺跡は位置する。

調査区を南北 4 つに分割し、北から 1 区、2 区、3 区、4 区と呼称した。調査の結果、弥生時代後期から古墳時代はじめと平安時代後期から鎌倉時代の遺構を検出した。

【1 区】

検出した遺構は溝と土坑である。

弥生時代後期から古墳時代はじめの南北と東西に延びる溝を 2 条確認した。深さ 10 cm～15 cm と浅く、調査区外へと延びている。埋土からは甕の口縁部や体部などが見つかり、とくに南北溝の埋土からは、土器片が多数出土している。

北東から南西に延びる平安時代後期から鎌倉時代の溝は幅 1.5m～2.0m、深さ 30 cm を測り、2 区まで



2 区 掘立柱建物跡（南東から）

続いている。埋土からは須恵器碗などが出土している。

【2区】

検出した遺構は、掘立柱建物跡1棟・溝・土坑である。

調査区東端で南北2間以上×東西2間以上の掘立柱建物跡を検出した。柱穴からは須恵器碗が出土しており、平安時代後期のものと考えられる。1区で確認した平安時代後期から鎌倉時代の溝は2区でも確認されている。出土遺物から、掘立柱建物跡と溝は同時期のものである。

【3区】

検出した遺構は、掘立柱建物跡1棟・溝・土坑である。

調査区南端で南北4間×東西2間以上の掘立柱建物跡を検出しており、さらに西側へと続いている。

調査区西端で土坑を確認した。土坑の西半は調査区外へと続いている。直径1.5m、深さ30cmを測り、埋土から土師器塀が出土し、13～14世紀のものと考えられる。

【4区】

検出した遺構は、掘立柱建物跡1棟・溝・土坑である。

調査区中央で南北2間×東西2間以上の掘立柱建物跡を検出した。

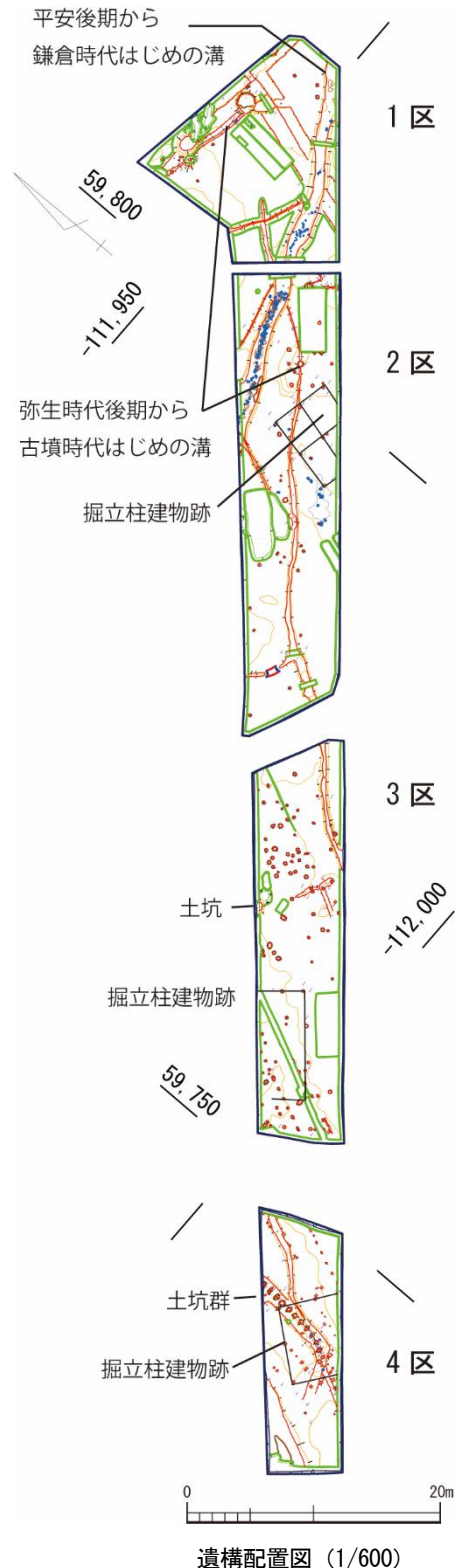
調査区中央で溝と重複した土坑を11基確認した。土坑は北西から南東方向に並んでおり、南東から順に土坑が深くなっている。須恵器碗が出土し、平安時代後期のものと考えられる。

3 まとめ

調査区には黒褐色の砂質土が全体に広がっており、北から南へ傾斜している。この層の上面において、弥生時代後期から古墳時代はじめと平安時代後期から鎌倉時代の2時期の遺構を確認している。

弥生時代後期から古墳時代はじめの遺構は北側の高い部分に遺構が集中している。国道東側で西脇市教育委員会が実施した調査で同時期の竪穴住居跡が見つかったことから、微高地上に弥生時代後期から古墳時代はじめの集落が展開していた可能性がある。

平安時代後期から鎌倉時代の遺構は調査区全体に見られることから、南側の低地にも開発が進み集落が広がっていたことがわかる。北側に位置する津万遺跡にも同時期の集落が見つかったが、津万遺跡からは青白磁合子などの優品が出土している一方、当遺跡からは輸入磁器の出土がないことが指摘できる。



4 さいむら 才村遺跡

遺跡調査番号 2019003・2019008

所在地 姫路市広畑区才

事業者名 兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所

事業名 (一)広畑青山線社会資本整備総合交付金
事業

担当者 西口圭介・西山昌孝・乗本愛実

種別 本発掘調査

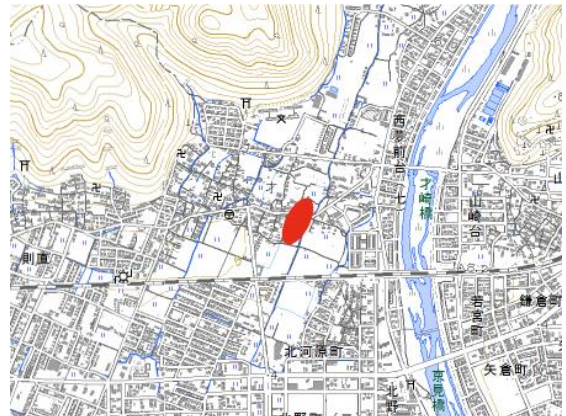
期間 【A地区】令和元年5月14日～8月23日

【B-1地区】令和元年8月9日

～令和2年2月20日

面積 【A地区】1,265 m²

【B-1地区】1,507 m²



遺跡の位置（「姫路南部」）

1 調査に至る経過

事業に先立ち、事業地の分布調査（遺跡調査番号:2002013）および確認調査（遺跡調査番号:2017103・2019076）を実施したところ、JR 山陽本線の北側では才村遺跡、南側では郷着遺跡が存在することが明らかとなり、平成30年度に郷着遺跡（遺跡調査番号:2018006）の本発掘調査を実施した。令和元年度は、才村遺跡の本発掘調査を市道を境に2回に分け（A地区:2019003・B-1地区:2019008）実施した。

2 調査の概要

遺跡はなだらかに南へ伸びる扇状地上にあって、A地区では調査区西端の一部、B-1地区では調査区東半分が埋没した旧中州上の微高地に立置している。

【A地区】

遺構面は2面あり、第1面は古墳時代末～中世、第2面は弥生時代後期～古墳時代初頭である。

中世の遺構は溝、水田区画・水田畦畔を検出した。水田区画はA-②-2区東半において検出した。対応する水田土壌からは『永楽通寶』が出土しており、概ね中世末期には水田が営まれていたことが判明した。この他、A-①-1区では幅1m前後の畦畔痕跡が見つかった。現地表に残る土地区画と同じ走向をとっており古代～中世の畦畔痕跡と考えられる。

古墳時代中期～後期・末期の遺構は掘立柱建物跡、土坑、溝を検出した。溝SD201は溝SD301と重複しており新しい。A-①-1区南東端から南南西に流れ、A-②-5区南南西隅より調査区外へと続いている。A-②-4区の溝底からは、15本以上の木杭を検出しており、井堰を設けていた可能性が高い。SD201の遺物は、溝下層から古墳時代中期の須恵器高杯や甕、竹製の堅櫛が出土している。また、最上層からは奈良時代～平安時代前半の土器が少量出土しており、古代にはほぼ埋没していたと考えられる。

掘立柱建物跡SB59はA-①-1区中央西寄りに位置している。桁行3間・梁行2間の側柱建物である。東西桁行約5.5m×南北梁行4.3mを測り、桁行方位をN75°Wにとる。柱穴は円形掘方であり、径0.8m～1.0m前後の規模をもつ。掘方内より古墳時代中期頃の須恵器杯が出土している。

弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構は堅穴住居跡、土坑、流路、溝を検出した。堅穴住居跡SH30は

A-①-1 区中央に位置しており、掘立柱建物跡 SB59 の柱穴に切られている。中央部は長方形の範囲で低床部を造り、周囲は幅 40 cm 前後の屋内高床部が巡っている。低床部中央には楕円形の中央土坑があり、周囲に周堤が巡っている。溝 SD301 は A-①-1 区の東壁より出現し、南南西に流れ、A-②-5 区南南西隅より調査区外へと流れ出している。検出全長約 80m・幅 3.5m・深さ約 0.8m、ロート状の断面形状をもつ。SD301 は下層に存在する埋没旧河道の痕跡に沿って流れたものと考えられる。先述した SD201 とともに、掘り返しなど人為的な管理が行われている。溝内からは弥生時代後期の甕、古墳時代初頭の土師器壺などが出土している。



SD301 全景（南から）



SH30 全景（北から）

【B-1 地区】

遺構面は 3 面あり、第 1 面は平安時代初頭～室町時代、第 2 面は弥生時代末～古墳時代後期、第 3 面は弥生時代後期である。第 1 面は、東半は柱穴が密集する集落跡（居住域）、西半は溝跡で占められており、長く耕作地（生産域）であったと考えられる。

鎌倉・室町時代の遺構は、掘立柱建物跡 4 棟、柱穴群、井戸 2 基、石敷き火葬施設跡と火葬墓を検出した。井戸 2 基はいずれも石組である。SE1278 は調査区東端にあり、石組みの井側の下に曲物の水溜を据えている。SE1594 は調査区の中央にあり、15 世紀代の土師器鍋を含む土で埋まっている。石敷き火葬施設跡と火葬墓 SX1175 は柱穴群中にある。平面形が浅い卵形の土坑に全長 1.3m 前後・幅約 0.7 m の石敷きを施している。火を受けた痕跡があり、火葬施設跡と考えられる。石敷きの上からは、鉄釘・追善供養に使われたと考えられる土師器小皿と、蔵骨器に使用したと考えられる瓦質羽釜片が出土している。時期は 13 世紀後半～14 世紀代である。

平安時代の遺構は掘立柱建物跡・井戸・土坑・溝跡を検出した。井戸 SE1119 は調査区のほぼ中央で検出した。縦板で組まれた一辺約 70 cm の井側の底に木櫃を転用した水溜を据えている。水溜内からは平安時代初頭の須恵器杯・土師器杯蓋、曲物、桃の種が出土した。曲物の底板の外面には『永』の刻書があり、杯蓋で蓋をして井戸底に納めたと考えられる。

第 2 面からは、弥生時代末～古墳時代前期の溝、古墳時代中期の溝、古墳時代前期～後期の竪穴住居跡群を検出した。竪穴住居跡は 22 棟を検出した。立地は、やや時期が新しいと思われる 2 棟を除いて、調査区の東半分の高台部に集中する。平面形は方形、あるいは長方形である。特徴として、支柱穴が明確でなく、四隅に小さい柱穴を設けているものが多い。

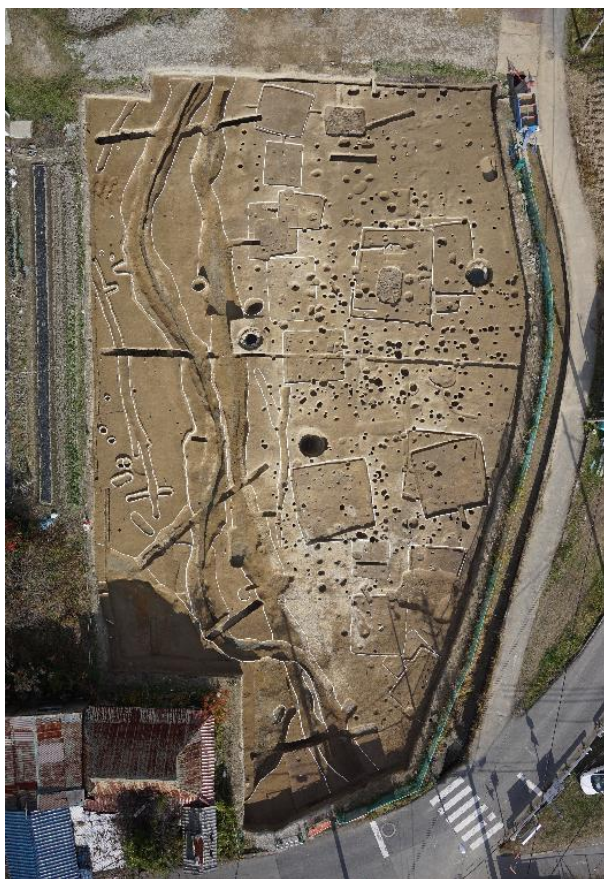
このなかで、竪穴住居跡 SH2058・SH2083・SH1314・SH1410 は4棟重複して検出した。SH2058・SH2083 にはカマド跡が存在する。支柱穴は明確でなく、竪穴の四隅に小さい柱穴を設ける。西側の一边が同じ位置にあり、これを基準にカマドの位置を変え、連続して建て替えたと考えられる。SH1314 はSH2083 より下位で検出した。支柱穴は4本で壁溝が巡る。壁溝の底には壁板が立てられていた痕跡が残っている。これから復元すると支柱穴が東側に寄った長方形の竪穴住居跡になる。SH1410 は最下位であるが、これに該当する支柱穴は検出できなかった。これらの竪穴住居群の時期は、出土遺物から古墳時代前期から後期にわたると考えられる。

住居跡群以外の遺構として溝 SD2028・SD2050 が挙げられる。この2本の溝は、微高地から一段下がった旧河道跡部分を流れており、概ね旧河道跡がほぼ埋没した時点で掘り込まれている。なお、SD2028 はA地区のSD301にSD2050 はA地区のSD201に対応し、ゆるやかに蛇行しながら南方に流れている。

第3面は、東半分の微高地部分で弥生時代後期の溝、西半部の低地部分で水田畦畔・杭列・土坑を検出した。溝SD2422は微高地肩部に沿って南下し、調査区中ほどで第2面のSD2028と重複し流末が不明となっている溝内からは弥生時代後期の甕、器台など多量の土器が出土した。

西半部の低地部分では第2面の下、標高2.5m前後～2.1mに灰色シルト（Ⅶ層）が存在している。灰色シルトは水田土壌と考えられ、面上には人間・動物の足跡を多数検出しており、所々に小規模畦畔が残存している。また、畦畔に沿って杭列（杭9本）・畦畔の芯材と考えられる粗朶の束を検出した。

調査区の南端にある旧河道の肩部（SX2199）の砂礫層上からは土坑 SK2282 を検出した。



B-1 地区 第1面 全景（上が北）



B-1 地区 第2面 全景（上が北）

3 まとめ

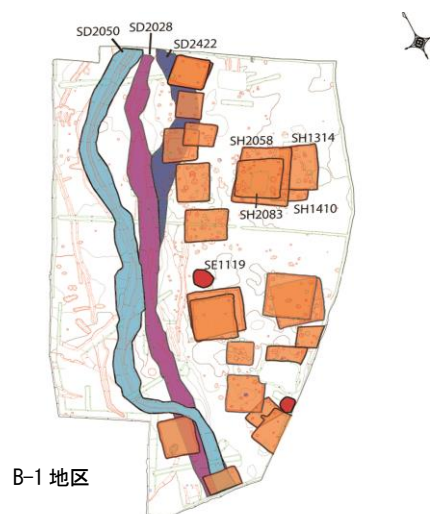
今回の調査で、A 地区では、弥生時代後期から古墳時代後期・末期にかけては、調査区の北半部の A-①区の中央か西半部に竪穴住居跡や掘立柱建物跡が見つかり、居住域として利用されていた。この居住域の南東側には溝 SD301 や溝 SD201 などが継続して流れており、遺物が多く出土していることから西側に存在する居住域や上流に存在する可能性がある居住域は規模が大きいと考えられる。

特に古墳時代中期の溝 SD201 の溝底の木杭列は、井堰であった可能性が高い。最上層から奈良時代～平安時代前半の土器が少量出土しており、以後中世には溝や水田区画、水田畦畔を検出しており、調査区全域にわたって居住域ではなく水田域として機能していたことが考えられる。

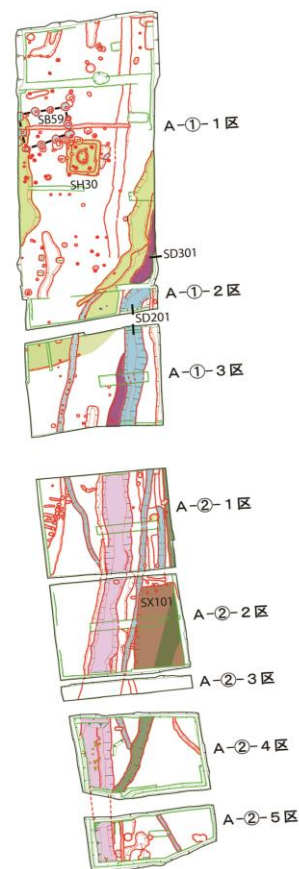
B-1地区では、古代には掘立柱建物跡や井戸が見つかり、遺物の中には緑釉陶器、須恵器風字硯・円面硯、墨書土器などの存在は、当地に役所的な機能をもった拠点集落があった可能性が高い。中世については膨大な数の柱穴から、集落が長期間営まれたことが判明した。同時期に営まれた石敷き火葬施設跡の存在は、当地に在地の領主層や名主と言われる有力者が葬られた可能性を想起できる。

旧河道は、微高地の間を縫うように一部重複しながら調査区北端から南端へと流下しており、弥生時代以降、溝として管理されていたと考えられる。この溝は時期・走向から推して A 区において検出した SD201・SD301 に続く可能性が高く、南西に流下し、地形に従って平成 30 年度に調査を行った郷着遺跡付近に達する可能性がある。

また、微高地上において、これまで認識していた遺構面よりも更に深い部分に弥生時代中期の遺跡が存在する可能性があること、埋没旧河道内の標高 2m 前後の深い地点に水田遺構が存在することが判明した点は周辺の遺跡を考察する上で収穫であったと考える。



B-1 地区



A 地区

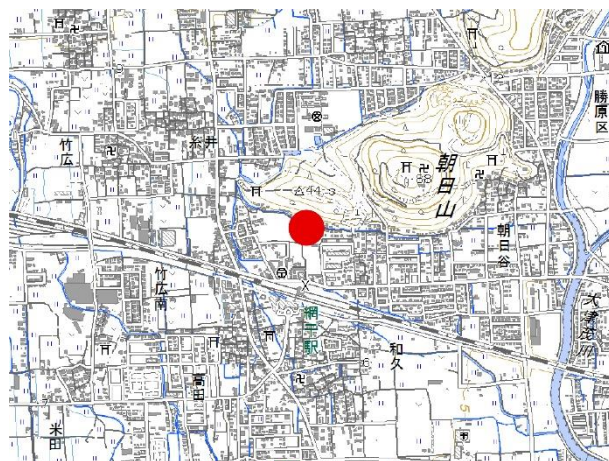
調査区 全体図



5 関ノ口遺跡

遺跡調査番号 2019024

所在地 姫路市網干区和久
 事業者名 姫路市
 事業名 中播都市計画事業 JR 網干駅前
 土地区画整理事業
 担当者 藤原怜史・久保弘幸・西山昌孝
 種別 本発掘調査
 期間 令和元年 11 月 22 日
 ～令和 2 年 2 月 17 日
 面積 327 m²



遺跡の位置（「網干」）

1 調査に至る経過

姫路市は網干区和久において、中播都市計画事業 JR 網干駅前土地区画整理事業を行っている。関ノ口遺跡では上記事業に伴い、平成 28 年度から姫路市埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。今回の調査区については、姫路市の依頼を受けた兵庫県教育委員会より、(公財) 兵庫県まちづくり技術センターが受託し、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

関ノ口遺跡は揖保川東（左）岸に広がる沖積平野上に位置しており、今回の調査区は遺跡の北にひかえる朝日山の麓の微高地上に立地する。調査は上層から第 1 面・第 2 面・第 3 面の 3 面を実施した。

【第 1 面】

第 1 面で検出した遺構は、古代から中世に属するものである。古代に属する遺構の中で、検出した柱穴から復元される 3 棟の掘立柱建物跡（SB1～SB3）と、調査区北東部に位置する溝（SD279・SD280）が特筆される。掘立柱建物跡はいずれも北からやや東に傾いた軸をもつ。SB1 は調査区南西部に位置し、一辺 1 m 規模の方形の柱穴からなる 2 間×3 間の柱穴列と、その周囲に一回り小さい柱穴からなる 3 間×3 間の柱穴列が廻る構造をもつ建物跡であり、四面廂建物の可能性が考えられる。SB2 は調査区北壁にかかる、一辺 80cm 規模の方形の柱穴からなる 3 間×2 間以上の側柱建物である。SB3 は SB1 と SB2 の間に位置し、円形の柱穴からなる 1 間×6 間の柱穴列である。

SD279 は南北方向に設けられた溝で、部分的に拳大から人頭大の礫が集積している。SD279 からは角柱状の面取りをもつ土師器の高坏や、須恵器の壺などが出土している。SD280 は調査区の北東隅で一部のみを検出しており、東西方向にのびる溝である可能性が考えられる。SD279 と SD280 の間にも集石があり石の下には粘土質の貼り土が認められることから、SD279 がある程度埋没した段階で石が配され、護岸がなされていたようである。

いずれの掘立柱建物跡からも明確な時期を示す遺物の出土はなかったが、柱穴が後述する中世の柱穴に切られていること、復元される建物の軸が中世のものと異なること、大規模な方形の柱穴からなる建物であること、当該期の遺物が調査区北東の溝（SD279・SD280）から出土していることなどから、同時期の遺構である可能性が高いと判断した。

中世に属する遺構の中では、検出した柱穴から復元される 2 棟の掘立柱建物跡（SB4・SB5）と、調査区東部に設けられた溝（SD45）が特筆される。復元された掘立柱建物跡はいずれも南北に軸をもつ。SB4 は 3 間×4 間の総柱建物で、SB5 は 2 間×2 間以上の側柱建物である。SD45 は南北方向に設けられた溝で、調査区の南側三分の一の位置で東へ直角に折れ曲がり、調査区の外へと続く。このことから、本調査区の東側には溝に囲まれた館などが存在する可能性が想定される。このほか、遺存度の高い弥生土器が詰め込まれた柱穴を数穴確認した。出土した弥生土器は、後述する第 2 面出土の弥生土器と同時期のものである。また、調査区の北半では上記の遺構を切る耕作溝や柵列が認められた。

【第 2 面】

第 2 面では、弥生時代中期に属する土坑・溝・柱穴を検出した。埋土に炭や焼土を含む土坑とその周囲の柱穴は、竪穴住居跡の残欠である可能性がある。この他、調査区内には流路が流れる。埋土には遺物がほぼ含まれず、土層の観察からは洪水砂によってごく短期間に埋没したことがわかる。

【第 3 面】

第 3 面では柱穴および土坑を検出したが、これらの時期を特定しうる遺物の出土はなかった。

3 まとめ

今回の調査では三つの遺構面を検出し、弥生時代中期以前（第 3 面）、弥生時代中期（第 2 面）、古代・中世（第 1 面）の大別四時期の遺構が認められ、断続的に集落が形成されたことが明らかとなった。なお、同遺跡内の異なる調査区では古墳時代の遺構が検出されているが、今回の調査で明確に古墳時代に属する遺構は見つからず、遺物に関しても僅少であった。

弥生時代中期については、検出した遺構数は多くないものの、今回の調査で出土した土器の大部分を当該期の土器が占める。加えて、竪穴住居跡の可能性が考えられる土坑と柱穴も存在しており、本調査区とその周辺には弥生時代中期の集落が広がっていた可能性は高いと考えられる。

古代については、大型の方形柱穴をもつ掘立柱建物跡が特筆される。特に SB1 は柱穴の規模が一辺約 1m と一際大きく、周囲に柱穴列が廻る特異な構造をもつことから四面廂建物の可能性が考えられる。通常の集落にみられる掘立柱建物跡とは異なり、当該期における地域の拠点的性格を有する施設の可能性も想定しうる。周辺の調査成果を含め、建物の配置などからもその性格を評価することが求められる。

中世の集落については、全容を明らかにすることはできなかったが、掘立柱建物跡 2 棟を検出し、当地における中世集落を知る基礎的資料が得られた。また、溝 SD45 は直角に折れ曲がり調査区東外へと続いていくことから、隣接地域に館などが存在する可能性を想像させる。



調査区遠景（北上空から）



第 1 面全景（南から）



SB 1 全景（北から）



SB 2 全景（南から）



第2面全景（南から）



竪穴住居跡（南から）



第3面全景（南から）

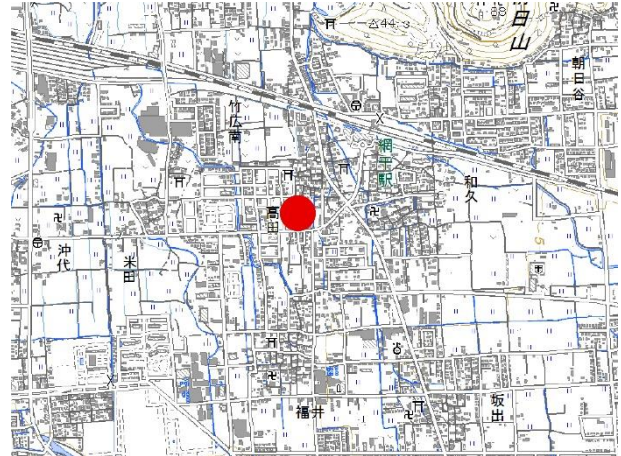


第1面遺構図（1/200）

6 前田遺跡

所在地 姫路市網干区高田
事業者名 兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所
事業名 (主) 太子御津線社会資本整備
総合交付金事業
担当者 藤原怜史・久保弘幸
種別 本発掘調査
期間 令和元年5月8日～7月11日
令和元年8月9日～11月21日
面積 7-D区：260 m²、7-E区：46 m²
10-A区：400 m²、10-B区：166 m²

遺跡調査番号 2019004・2019028



遺跡の位置（「網干」）

1 調査に至る経過

兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所は、姫路市網干区高田において、(主) 太子御津線社会資本整備総合交付金事業を行っている。上記事業に伴い、平成 28 年度から兵庫県教育委員会が前田遺跡の本発掘調査を実施している。今回の調査区は、平成 31 年 1 月に兵庫県教育委員会が実施した確認調査（遺跡調査番号：2018050）により、遺跡が存在することが明らかとなった。このため、姫路土木事務所よりの依頼を受けた兵庫県教育委員会から、(公財) 兵庫県まちづくり技術センターが受託し、本発掘調査を実施した。前半の調査（7-D 区）において、検出した遺構が調査区の北側に広がる可能性が高いことが判明したため、令和元年 5 月に行った追加確認調査（遺跡調査番号：2019025）の結果に基づき、後半の調査（7-E 区・10-A 区・10-B 区）を実施した。

2 調査の概要

【7-D 区】

遺物包含層中からは弥生時代中期～中世（鎌倉時代）の遺物が出土し、古墳時代前期・中期・奈良時代および中世に属する遺構を検出した。古墳時代の遺構は竪穴住居跡 8 棟を検出し、古墳時代前期から中期にかけて集落が営まれたことが明らかとなった。古墳時代前期の竪穴住居跡からは、「山陰型甗形土器」をはじめとする日本海沿岸地域の特徴を有する土器類が出土した。古墳時代中期の竪穴住居跡のなかには一辺約 6m 規模の大型の住居跡もあり、住居の埋土中からは多数の土師器高杯が出土した他、コンパス文を施す須恵器器台が出土している。

古代の遺構は掘立柱建物跡 2 棟であり、建物跡はいずれも調査区東辺付近に位置し、その主要部は調査区外東側に広がる。柱穴の規模が最大で一辺 1 m 近いことから、本地域における奈良時代の有力な建物群であったと推定される。柱穴内からの出土遺物は僅少であったが、出土した須恵器から、奈良時代に属すると判断した。

中世の遺構は掘立柱建物跡 1 棟を含む柱穴群と溝を検出した。掘立柱建物跡は南北 2 間×東西 3 間以上の規模の側柱建物である。溝は前年度の調査区から続くもので、最大幅 1m を測り、調査区内を南北に縦断して、調査区北壁付近で終わる。当該期の館等の敷地を区画する溝の可能性が考えられる。

【7-E 区】

狭小な調査区ながら、古墳時代の竪穴住居跡 1 棟と井戸 1 基、古代から中世にかけての土坑と柱穴を検出した。検出した井戸は直径約 2m、深さ約 1.8m で、井戸の下底部には木製の井戸枠が遺存していた。この井戸枠内からは、ほぼ完形を保つ須恵器大型甕・壺、土師器壺・甕に加え、滑石製臼玉が出土しており、井戸の廃絶に伴う祭祀が行われたと考えられる。

【10-A 区】

包含層中からは弥生時代中期～中世の遺物が出土し、弥生時代中期の旧河道、古墳時代中期および中世の遺構を検出した。調査区の南北では地山の堆積が異なり、シルトベースの調査区北半では遺構密度が高く、砂礫ベースの調査区南半では遺構が僅少である。弥生時代の旧河道は調査区北西部を北北東から南南西にのびており、中筋遺跡 5 区で検出した旧河道につながると考えられる。

古墳時代の遺構は、井戸状遺構を検出した。周囲に同時期の遺構が認められないことから、集落の中心部からやや離れた位置に設けられた可能性が考えられる。遺構上層は細かく砕かれた土器片を大量に含む埋土で埋められており、最上面中央部では須恵器坏蓋が重ねられた状態で出土している。下層では中央にコンパス文を施す須恵器器台が埋置され、周囲からは須恵器カップ形土器・土師器甕・甗や多数の土師器高坏のほか、刀剣類と思われる鉄製品が出土している。埋土の篩がけでは大量の滑石製臼玉が回収されているほか、剣形石製模造や管玉、ガラス小玉も出土している。

中世の遺構は井戸・土坑・溝と多数の柱穴を検出した。柱穴の密度が高いことと、柱間がやや不規則であることから復元は困難を伴うが、数棟の建物跡が重複している可能性がある。柱穴群の領域内では、備前焼の甕が据えられた土坑を検出した。井戸は 2 基が重複しており、井戸底に曲物と編籠が遺存する古い井戸を壊して、新しく石組の井戸が設けられている。

【10-B 区】

古墳時代の竪穴住居跡および古墳時代～中世と考えられる柱穴・溝・土坑を検出した。10-A 区南半から続く砂礫ベースの地山が 10-B 区にも続いており、他の調査区と比べて遺構密度は低い。

3 まとめ

今回の調査では、大別 4 時期の遺構が認められた。最も古いものは弥生時代中期に属しており、古墳時代前期から中期、奈良時代、中世と断続的に集落が形成されていたことが明らかとなった。特筆すべきは古墳時代に属する遺構であり、今年度の調査では 11 棟の竪穴住居跡を検出したほか、集落域の外れでは多彩な遺物を有する井戸状遺構を検出した。今回の調査で検出した竪穴住居跡は前期から中期にかけての時期に属し、日本海沿岸地域との交流を示す土器の出土や大型住居跡での土師器高坏の大量出土など、これまでの調査で明らかになりつつある前田遺跡における古墳時代の集落像を一段と特徴づける成果が得られた。また、井戸状遺構からはコンパス文を施す須恵器器台をはじめとした初期須恵器、多数の土師器高坏、臼玉をはじめとする玉類や剣形石製模造、刀剣類と考えられる鉄製品が出土しており、祭祀遺構であると考えられる。過去の調査でも、同様の遺構が集落域の南側の外れで見つかっており、古墳時代の集落における祭祀のあり方を解明する好資料となるだろう。



10-A 区全景（北西上空から）



10-A 区 中世の石組井戸



7-D 区 古墳時代前期の竪穴住居跡



7-D 区 古墳時代中期の竪穴住居跡



10-A区



10-B区

7-D区

7-E区



7-A区

7-B区

7-C区



8区



前田遺跡の調査区配置 (1/600)



10-A 区 井戸状遺構下層 遺物出土状況



10-A 区 井戸状遺構最上面 坏蓋出土状況



10-A 区 井戸状遺構 半截状況



7-E 区 井戸枠内土器出土状況

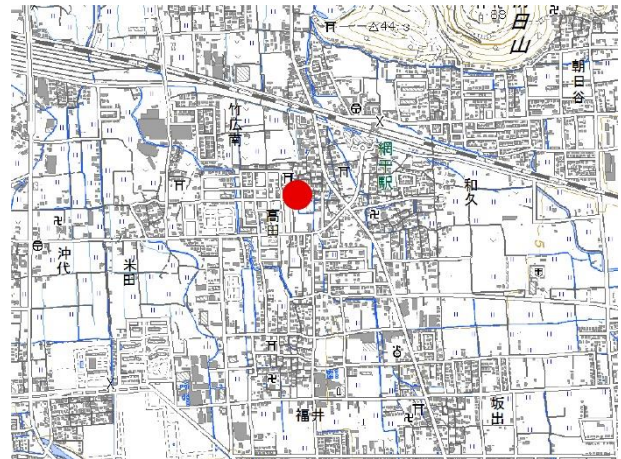


7-E 区 井戸内出土土器

7 中筋遺跡

所在地 姫路市網干区高田
事業者名 兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所
事業名 (主) 太子御津線社会資本整備
総合交付金事業
担当者 藤原怜史・久保弘幸
種別 本発掘調査
期間 令和元年5月8日～令和元年7月11日
面積 19 m²

遺跡調査番号 2019005



遺跡の位置（「網干」）

1 調査に至る経過

兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所は、姫路市網干区高田において、(主) 太子御津線社会資本整備総合交付金事業を行っている。上記事業に伴い、平成 29 年度から兵庫県教育委員会が中筋遺跡の本発掘調査を実施している。今回の調査区は、平成 29 年 12 月に兵庫県教育委員会が実施した確認調査（遺跡調査番号：2017028）により、遺跡が存在することが明らかとなった。このため、姫路土木事務所より依頼を受けた兵庫県教育委員会から、(公財) 兵庫県まちづくり技術センターが受託し、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

今回の調査区からは、弥生時代中期の旧河道と中世の溝・土坑を検出した。今回の調査区が本地域における条里型地割りで坪境に位置することから、地割りに関連する溝であった可能性がある。土坑は上記の溝を切ってつくられており、埋土中からは 15 世紀代と思われる陶器片が出土した。

3 まとめ

今回の調査では、調査区が狭小であったにもかかわらず遺物量は比較的多く、調査区付近に密度の高い遺構群が存在することを予測させる成果である。



調査区遠景（南から）



調査区全景（北から）

しろやま
8 城山遺跡

遺跡調査番号 2019042

所在地 揖保郡太子町鵜
事業者名 兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所
事業名 道路事業（国）179号（現道拡幅部）
担当者 垣内拓郎・松崎光伸
種別 本発掘調査
期間 令和元年11月11日
～令和2年2月28日
面積 334 m²



遺跡の位置（「龍野」）

1 調査に至る経過

兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所は、たつの市誉田町福田～揖保郡太子町鵜において、防災・安全社会資本整備交付金（国）179号歩道設置事業および道路事業（国）179号太子道路（現道拡幅部）を計画している。事業地には、埋蔵文化財包蔵地「福田小川原遺跡（県遺跡番号：120682）」、「樋ノ上遺跡（県遺跡番号：450006）」、「城山遺跡（県遺跡番号：450005）」が存在する。

城山遺跡については、平成28年度に防災・安全社会資本整備交付金（国）179号歩道設置事業に伴い、本発掘調査（遺跡調査番号：2016077）を実施しており、その北西側では平成29年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査（遺跡調査番号：2017122）の結果、遺構が存在することが明らかとなったため、防道路事業（国）179号（現道拡幅部）に伴って本発掘調査を実施した。

なお、城山遺跡と合わせて防災・安全社会資本整備交付金（国）179号歩道設置事業同事業に伴う樋ノ上遺跡（遺跡調査番号：2019012）、および福田小川原遺跡（遺跡調査番号：2019066）の本発掘調査についても合わせて実施した。

2 調査の概要

城山遺跡は、林田川の左岸に形成された氾濫原に立地する。当該遺跡は、法隆寺領荘園の鵜荘に含まれ、南西部には斑鳩寺が存在し、周辺には条里地割が残る。

調査区については、事業予定箇所の福田小川原遺跡、樋ノ上遺跡にA・B地区、城山遺跡にC・D地区を設定した。また調査区は、住宅・店舗に隣接しており、出入口等の確保、機能する埋設管の回避等、十分に安全に配慮して調査を実施する必要があったため、次のとおり調査区を細分化した。北から順に、福田小川原遺跡には、A-1、B-1、B-2、A-2北の4地区、樋ノ上遺跡にはA-2南の1地区、城山遺跡にD-1・2・3、C、D-4の3地区である。城山遺跡の調査区D-1・2・3区については、当初埋設管を避けて3つに細分化する予定であったが、現地表で区別できなかったため、便宜的に地区名称のみを残し、基本的に一調査区として取り扱う。ただし、調査の進展に伴って北側で確認できた管理設箇所以北についてはD-1区、以南をD-2・3区に分け、適宜区別して呼称する場合がある。

城山遺跡の調査区の規模は、C・D地区を通して延長約57m、幅5.7～12.6mである。

遺構の検出は、マンガン沈着の顕著なオリーブ灰色シルト質土の上面で行ない、D-4区の一部の重

複する遺構は部分的に上層遺構として調査を実施した。遺構は、弥生時代後期、古墳時代終末期～奈良時代、平安時代～鎌倉時代に区分できる。以下に主たる遺構・遺物について報告する。

【弥生時代後期】

弥生時代後期の遺構は、D-4区で竪穴住居1棟、溝1条、土坑2基を検出した。SH57は直径3.3～3.5mの円形を呈する。住居は焼失しており、埋土からは炭化材や土器、粘土塊など多数の遺物が見つっている。炭化材の出土位置から、建物の屋根の様相がわかる一方、柱穴が検出できていない。このことから壁立構造の住居であった可能性がある。また4～6kg程度の粘土塊が3点出土しており、土器製作に関する住居跡であったと想起させる。SK27・SK33のいずれも長軸1～1.5m、短軸1m前後を測り、時期を特定できる遺物は出土していない。埋土の様相から、いずれもSH57埋土上層と似ていることから、近似した時期に埋没したものと考えられる。SD35も、時期を特定できる土器が出土していないが、埋土の様相から、SH57、SK27、SK33と近似した時期に埋没したと考えられる。

【古墳時代終末期～奈良時代】

D-2・3区で竪穴住居を1棟検出している。SH156の平面形は隅丸方形を呈し、南北0.97m、東西3.96mを測る。北側の大半部分は調査区外へと続いており、東端は攪乱を受けている。住居内から柱穴は確認できていない。埋土からは古墳時代終末期～飛鳥時代とみられる須恵器細片が出土している。

D-1区で溝1条を検出している。SD149は幅0.6m、深さ20cmを測り、北東-南西に延びて、西端は調査区外へと続いている。埋土からは須恵器杯Bの高台部分等が見つかっており、奈良時代の所産と考えられる。

【平安時代～鎌倉時代】

各調査区で柱穴を複数検出しているが、そのうちD-4区で、南北2間以上×東西2間の総柱建物跡SB01が復元できた。建物の南側は調査区外へと続いている。柱穴からは須恵器碗が出土しており、平安時代後期～鎌倉時代に位置付けられる。

C区、D-4区で溝を5条検出した。溝は南北溝(SD19・SD86・SD119・SD126)と東西溝(SD92)があり、いずれも幅0.3～0.5mを測り、SD19の埋土からは中世の土器が出土し、その他は時期を特定できる遺物は出土していない。後者の溝は層序関係やSB01との切り合い関係、埋土の様相から平安時代以前の可能性を残している。これらの溝は条里地割りに関する溝と考えられる。

【その他】

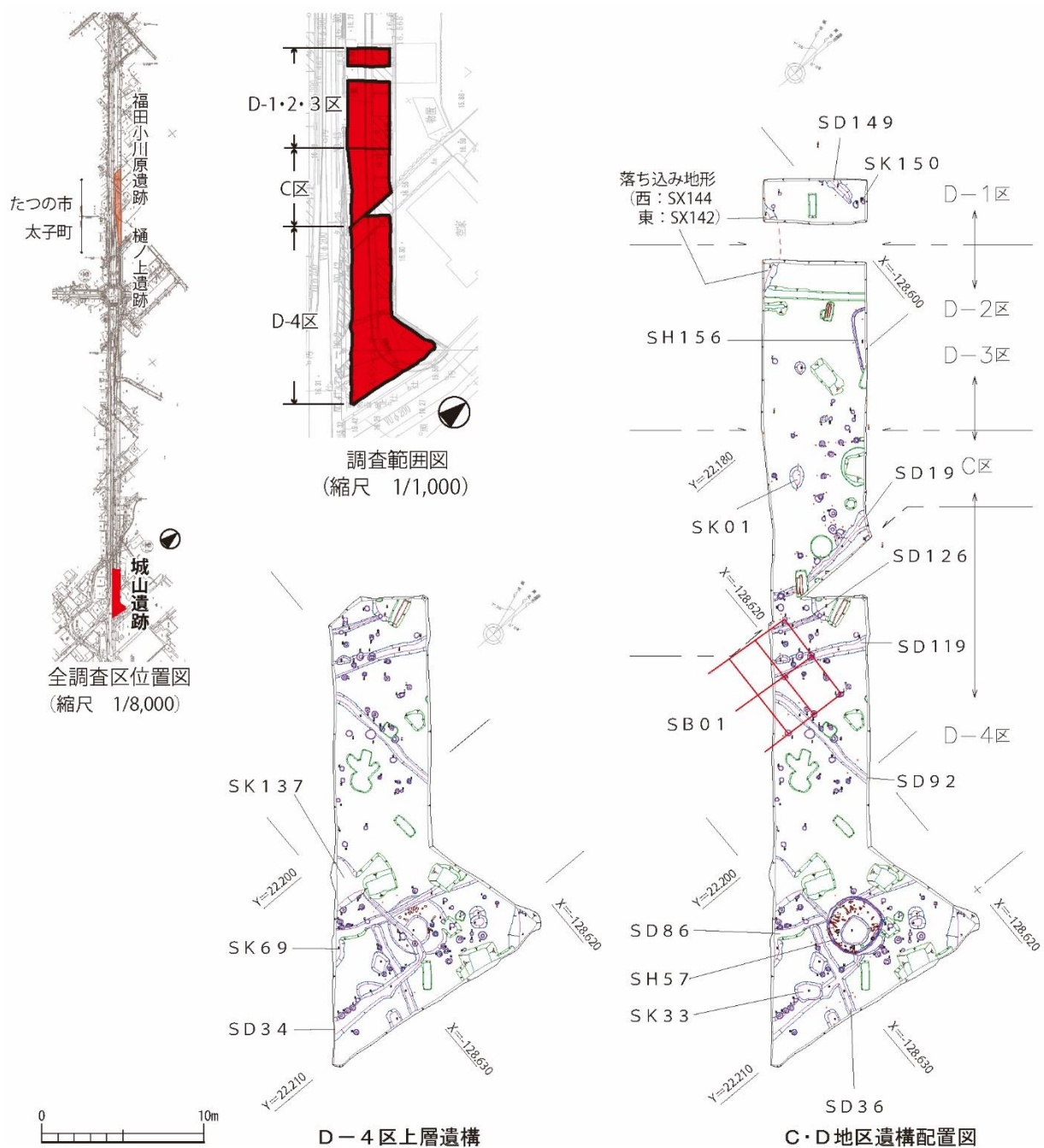
C区で平面楕円形を呈するSK01を検出した。また、D-1区で平面楕円形を呈するSK150と落ち込みSX142・SX144を検出した。SX142・SX144は一連の遺構とみられ、東側のD-2・3区西隅まで広がっている。ただし、各遺構とも遺物が出土しておらず、時期は不明である。

3 まとめ

調査の結果、弥生時代後期と古墳時代終末期～奈良時代、平安時代～鎌倉時代の遺構を検出し、当該地における各時代の集落の様相を確認することができた。

弥生時代後期には、焼失した竪穴住居跡と溝・土坑が確認できた。竪穴住居跡からは粘土塊が複数出土しており、土器製作等への利用が推測される。周辺にも住居跡が存在する可能性が高い。今回の調査では古墳時代終末期まで遺構は確認できていないが、本調査区東側では平成28年度の兵庫県教育委員会の調査によって、古墳時代中期～後期の竪穴住居跡が確認され、北東部では太子町教育委員会の調査

で弥生時代中期末～古墳時代後期の住居跡 7 棟が見つかったことから、弥生時代から古墳時代を通じて地点を変えながら集落が形成されていたと考えられる。平安時代～鎌倉時代の遺構は、溝や、掘立柱建物跡 1 棟を検出した。溝は主に D-4 区で確認でき、南北や東西の方位をとる。また、建物についても南北に主軸をもつと見られることから、これらは条里地割に関する遺構といえる。その他にも柱穴を複数検出しており、建物跡は調査区外にもさらに広がっていると考えられる。当該地は法隆寺荘園領鵜荘内に位置しており、荘園内の様相が一部明らかになったといえる。



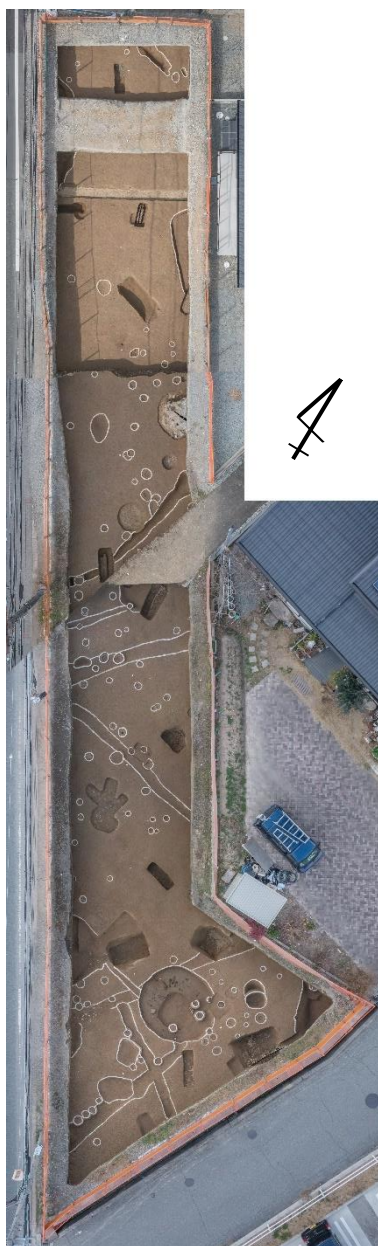
城山遺跡 (D-1・2・3、C、D-4区) 調査区位置図と遺構配置図



調査区遠景写真（西から）



C区 SD19の断面写真（西から）



C・D区の全景オルソ写真（写真上が東）

D-1区

D-2・3区

C区

D-4区



D-2・3区 SH156 竪穴住居跡検出状況（南から）



D-4区 SH57の全景写真（西から）



SH57 炭化材と土器の出土状況（西から）

9 樋ノ上遺跡

所在地 揖保郡太子町馬場
 事業者名 兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所
 事業名 防災・安全社会資本整備交付金
 (国) 179 号歩道設置事業
 担当者 垣内拓郎・松崎光伸
 種別 本発掘調査
 期間 令和元年 11 月 11 日
 ～令和 2 年 2 月 28 日
 面積 101 m²



遺跡の位置（「龍野」）

1 調査に至る経過

兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所は、たつの市菅田町福田～揖保郡太子町鶴において、防災・安全社会資本整備交付金（国）179 号歩道設置事業および道路事業（国）179 号太子道路（現道拡幅部）を計画している。事業地には、埋蔵文化財包蔵地「福田小川原遺跡（県遺跡番号：120682）」、「樋ノ上遺跡（県遺跡番号：450006）」、「城山遺跡（県遺跡番号：450005）」が存在する。

樋ノ上遺跡については、平成 27 年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査（遺跡調査番号：2015099）の結果、遺構が存在することが明らかとなったため、防災・安全社会資本整備交付金（国）179 号歩道設置事業に伴って本発掘調査を実施した。

なお、同事業に伴う福田小川原遺跡（遺跡調査番号：2019066）および城山遺跡（遺跡調査番号：2019042）の本発掘調査についても合わせて実施した。

2 調査の概要

樋ノ上遺跡は、林田川の左岸に形成された氾濫原に立地する。当該遺跡は、法隆寺領荘園の鶴荘に含まれ、南西部には斑鳩寺が存在し、周辺には条里地割が残る。

調査区については、事業予定箇所の福田小川原遺跡、樋ノ上遺跡に A・B 地区、城山遺跡に C・D 地区を設定した。また調査区は、住宅地や店舗等に隣接しており、出入口や駐車場の確保、機能する埋設管の回避等、十分に安全に配慮して調査を実施する必要があったため、次のとおり調査区を細分化した。北から順に、福田小川原遺跡には、A-1、B-1、B-2、A-2 北の 4 地区、樋ノ上遺跡には A-2 南の 1 地区、城山遺跡に D-1・2・3、C、D-4 の 3 地区である。ただし、城山遺跡の調査区 D-1・2・3 については、当初埋設管を避けて三つに細分化する予定であったが、現地表において区別できなかったため、一つの調査区として取り扱い、便宜的に地区名称のみを残した。

樋ノ上遺跡の調査区の規模は、A-2 区南の 1 地区を通して延長約 28m、幅約 3～5m である。福田小川原遺跡の調査区とは、北端のコンクリート擁壁を隔てて隣接する。

遺構検出面については、淡褐色シルト質砂を主とする基盤層となる自然堆積層の上面で検出した。福田小川原遺跡の第 1 面と概ね対応する。遺構は、平安時代後期～鎌倉時代および時期不明の遺構を検出した。以下に、主たる遺構・遺物について報告する。

【平安時代後期～鎌倉時代の遺構】

柱穴、土坑、溝を検出した。柱穴については、調査区中央付近で2基検出したが、建物を復元できなかった。遺物は出土しなかった。土坑については、調査区西端でSK06・SK07・SK10の3基を検出した。いずれも平面規模は幅約1m前後の浅い土坑で、須恵器碗や土師器鍋・小皿、被熱痕のある石などが出土し、北西で隣接する福田小川原遺跡から南に広がる一連の廃棄土坑と考えられる。出土遺物から12～13世紀頃に位置付けられる。溝については、調査区南東端にSD03を検出した。SD03は西側肩部のみが残り、南及び東は用水路のコンクリート擁壁の造成時に削られているため規模は不明だが、古い時期の水路に関連する遺構の可能性もある。

【時期不明の遺構】

調査区中央の落ち込み地形の底面で、土坑SK01・SK02の2基を検出した。SK01は幅約4m、長軸約4m以上、深さ約1mの比較的大きな土坑で、SK02の上から切り合う。SK02も概ね同一規模の土坑とみられる。埋土からは時期を判別できる顕著な遺物の出土もなく、時期を明確にしない。しかし、落ち込み地形の最下層は、弥生時代後期とみられる土器細片を含むシルト層であり、その直下でこれらの土坑を検出していることから、少なくともその頃に近い時期の所属が推測される。

3 まとめ

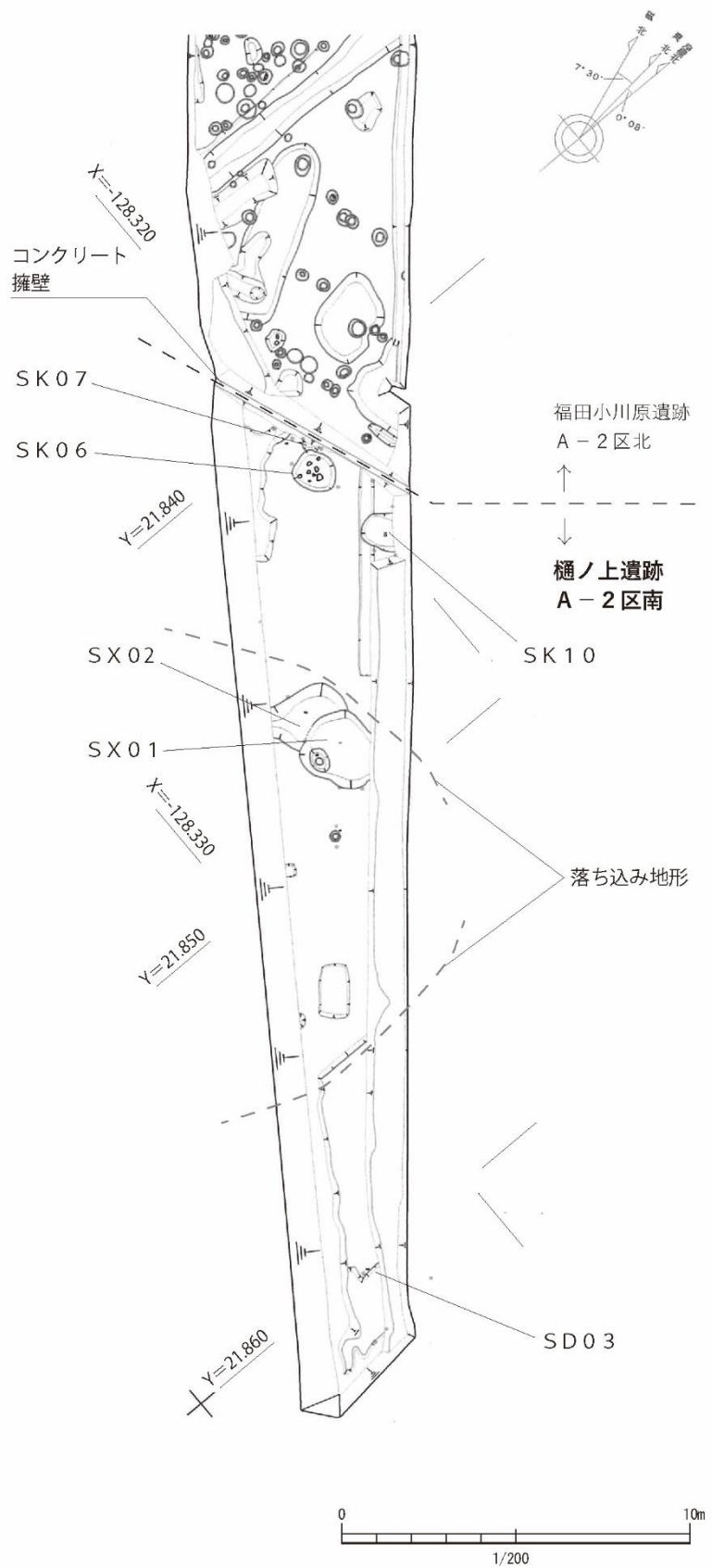
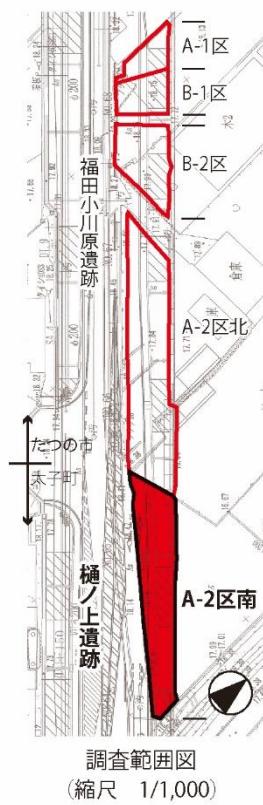
樋ノ上遺跡では、調査区の中央より北西側で平安時代後期～鎌倉時代の遺構・遺物が確認できた。特に調査区西端では、隣接する福田小川原遺跡の遺構群と同時期の遺構であり、このあたりを境として、北西側の福田小川原遺跡に向かって遺構が極端に集中するのに対し、A-2区南の中央より南東は、極めて遺構密度が希薄となる特徴が認められる。調査区南東端の溝の存在から、当該調査区より大きく地形が変化することからも、当該調査区は福田小川原遺跡の集落の端に位置するものと考えられる。また、時期については判然としないが、落ち込み地形の直下で検出した弥生時代後期頃とみられる土坑の存在からは、この頃より人の活動痕跡が認められるものの、遺構・遺物についても希薄といえ、やはり当該時期も遺跡の縁辺部に位置するものと考えられる。



調査区遠景（南から）



樋ノ上遺跡（A-2区南）全景（北西から）



樋ノ上遺跡 (A-2区北) 調査区位置図と遺構配置図

10 福田小川原遺跡

所在地 たつの市誉田町福田

事業者名 兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所

事業名 防災・安全社会資本整備交付金
(国) 179 号歩道設置事業

担当者 垣内拓郎・松崎光伸

種別 本発掘調査

期間 令和元年 11 月 11 日

～令和 2 年 2 月 28 日

面積 297 m²



遺跡の位置（「龍野」）

1 調査に至る経過

兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所は、たつの市誉田町福田～揖保郡太子町鵜において、防災・安全社会資本整備交付金（国）179 号歩道設置事業および道路事業（国）179 号太子道路（現道拡幅部）を計画している。事業地には、埋蔵文化財包蔵地「福田小川原遺跡（県遺跡番号：120682）」、「樋ノ上遺跡（県遺跡番号：450006）」、「城山遺跡（県遺跡番号：450005）」が存在する。

福田小川原遺跡については、平成 24 年度に兵庫県教育委員会が行った確認調査（遺跡調査番号：2012039）の結果、遺構が存在することが明らかとなったため、防災・安全社会資本整備交付金（国）179 号歩道設置事業に伴って本発掘調査を実施した。

なお、同事業に伴い樋ノ上遺跡（遺跡調査番号：2019012）および城山遺跡（遺跡調査番号：2019042）の本発掘調査についても合わせて実施した。

2 調査の概要

福田小川原遺跡は、林田川の左岸に形成された氾濫原に立地する。当該遺跡は、法隆寺領荘園の鵜荘に含まれ、南西部には斑鳩寺が存在し、周辺には条里地割が残る。

調査区については、事業予定箇所の福田小川原遺跡、樋ノ上遺跡に A・B 地区、城山遺跡に C・D 地区を設定した。また調査区は、住宅・店舗に隣接しており、出入口等の確保、機能する埋設管の回避等、十分に安全に配慮して調査を実施する必要があったため、次のとおり調査区を細分化した。北から順に、福田小川原遺跡には、A-1、B-1、B-2、A-2 北の 4 地区、樋ノ上遺跡には A-2 南の 1 地区、城山遺跡に D-1・2・3、C、D-4 の 3 地区である。

福田小川原遺跡の調査区の規模は、A-1、B-1、B-2、A-2 北の 4 地区を通して延長約 64m、幅約 4m～6m である。樋ノ上遺跡の調査区とは、南端のコンクリート擁壁を隔てて隣接する。

遺構については、基本的に第 1 面と第 2 面とに分けて検出しており、遺構の重複により上層遺構として部分的に複数面に分けて検出した。第 1 面は、B-2 区以北では、基盤層となる自然堆積層の上面で複数時期の遺構を検出し、土壌層が増える B-2 区より南では土壌層の上面において検出した。この土壌層は、調査区南端で薄くなり、その下層上面が樋ノ上遺跡の遺構検出面と対応する。第 2 面は、A-2 区北の当該土壌層を除去した自然堆積層上面において検出しており、A-1 区から連続する基盤層とな

る。遺構は、弥生時代後期以前、弥生時代後期、弥生時代末期～古墳時代初め、古墳時代末期～飛鳥時代、平安時代後期～鎌倉時代に区分できる。以下に、各時期の主たる遺構・遺物について報告する。

【弥生時代後期以前、弥生時代後期、弥生時代末期～古墳時代初め、古墳時代末期～飛鳥時代】

弥生時代後期以前の遺構は、B-2 区第 1 面で、溝（SD30）とそれに切られる土坑（SK27）を検出した。SD30 は南北を指向し、自然流路の可能性はある。弥生土器の小片が僅かに出土する。埋土上層から SX51 が掘り込まれる。

弥生時代後期の遺構は、B-2 区第 2 面上層で土坑 SK51 を検出した。埋土からは弥生時代後期の土器の破片が出土する。直上に SH10 が形成される。

弥生時代末期～古墳時代初めの遺構は、B-2 区第 1 面で、竪穴住居跡（SH10）、土坑（SK26）を検出した。SH10 は、一辺約 2.7m 以上の平面隅丸方形を呈するとみられ、部分的に検出している。住居から顕著な遺物の出土は見られず、これを切る SK26 からは土師器の小型直口壺が出土した。

古墳時代末期～飛鳥時代の遺構は、B-2 区第 1 面で、竪穴住居跡（SH02・SH03・SH09）を検出した。住居はいずれも部分的の検出であり、一辺約 3～3.8m の平面隅丸方形を呈する。SH02 からは須恵器壺が出土し、これに切られる SH03 からは土師器甕が潰れた状態で出土した。

【平安時代後期～鎌倉時代】

B-2 区第 1 面上層で土壇墓（SX11）、A-1 区、B-1・2 区、A-2 区北の第 1 面で、柱穴群、掘立柱建物跡（SB01～SB03）、墓跡（SX53）、溝（SD57・SD69・SD197）、集石土坑（SX56・SX78・SX227）、焼土坑（SX79）、落ち込み状遺構（SX29・SX71）を検出した。また、A-2 区北第 2 面で、柱穴群、焼土坑（SX251）、溝（SD252～SD254）を検出した。柱穴群は、A-2 区北の中央以南に集中しており、条里方向に沿う主軸を持ち、建物 SB01（東西 2 間×南北 4 間）、SB03（東西 5 間×南北 4 間）が復元できた。これらは重なり合うことから、複数回にわたる建て替えが行われたことが推測される。柱穴からは須恵器碗等の破片が出土する。そして、主軸方向が異なる SB03（1 間×4 間）は、これらよりも形成時期が新しいとみられる。SD57・SD69・SD197 はそれぞれ同時に形成されていないが、条里方向に沿っており、特に SD69、SD57 より以南で柱穴群の密度が高くなる。これより以北では墓跡 SX11・SX53 を検出しており、SX53 からは副葬品とみられる土師器羽釜や四葉形の瓦質硯が出土した。柱穴群の周辺で検出した集石土坑（SX56・SX78・SX227）には、土坑内に充填した拳大～人頭大の石に混じって土師器の破片等が出土しており、いずれも廃棄土坑とみられる。焼土坑 SX79 は、平面不整な長楕円形の浅い土坑で中央部に土器の破片を含む焼土層が広がる。性格については断定できないが、火葬場や墓跡の可能性はある。また、この北側の下層で直径約 1m の平面円形の SX251 が見つかった SX251 の平坦な底面には、幅 40cm の輪状に粘土が貼り付けられており、高火度の被熱によって粘土は炭化して黒色を呈し、その下面の基盤層上面は赤褐色に変色している。遺物の出土がなく、遺構の性格や明確な時期については特定できていない。また、落ち込み状遺構（SX29・SX71）は、洪水等による土砂の運搬と堆積によって形成された地形とみられる。第 2 面で検出した溝（SD252～SD254）については、北西－南東を指向する溝で、遺物の出土はなかった。ただし、これらの上層に条里に沿った溝 SD197 が形成されており、条里地割設定前の遺構と考えられる。

3 まとめ

調査の結果、福田小川原遺跡は林田川左岸の氾濫原に位置し、氾濫堆積物が形成した平地上に立地す

る。弥生時代後期以前、弥生時代後期、弥生時代末期～古墳時代初め、古墳時代末期～飛鳥時代、平安時代後期～鎌倉時代の遺構が確認できた。

弥生時代後期以前については、概ね南北方向に流れる自然流路（SD30）が認められたが、僅かに土器小片が含まれるのみで、当該遺跡での明確な人の生活の痕跡は認められないが、弥生時代後期には、流路埋没後に当該期の土器を含む土坑が形成され、生活の痕跡がわずかに認められるようになる。そして、弥生時代末期～古墳時代初頭や古墳時代末期～飛鳥時代には堅穴住居が複数認められ、明確な集落の形成が確認でき、平安時代後期～鎌倉時代になると、主軸を条里地割に沿った南北を指向する溝や掘立柱建物が認められる。また、溝（SD69・SD57）を挟んで調査区の北半部では墓が形成され、南半部では掘立柱建物が形成されるという土地利用の違いがみられるほか、掘立柱建物も限られた時期にほぼ同じ場所で複数回にわたる建て替えが行われるなど、土地利用が制限される様相も看取できる点は特徴的である。建物周辺には、土器の破片が混じり、多量の礫が充填された廃棄土坑も複数形成され、活発な集落での暮らしを伺い知ることができる。当該期の遺跡は、法隆寺領荘園の鵜荘に含まれており、当時の荘園や集落における具体的様相が明らかとなったといえる。



調査区遠景（北から）



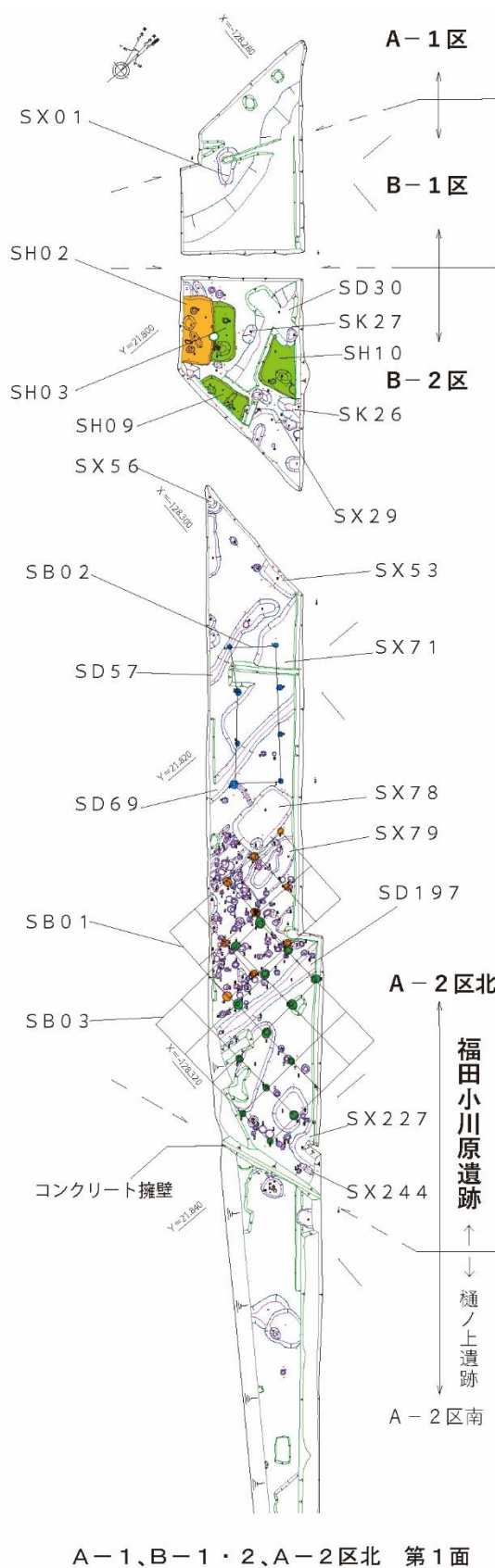
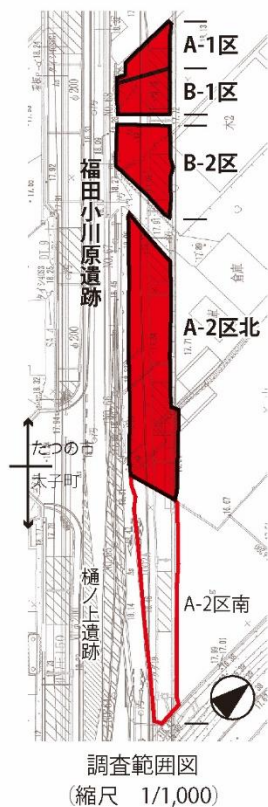
A-2区北 第1面全景（那東から）

〈右上〉B-2区 SH02・03 全景（南東から）

〈右中〉A-2区北 SB01 全景（北から）

〈右下〉A-2区北 SX53 出土瓦質硯（南東から）



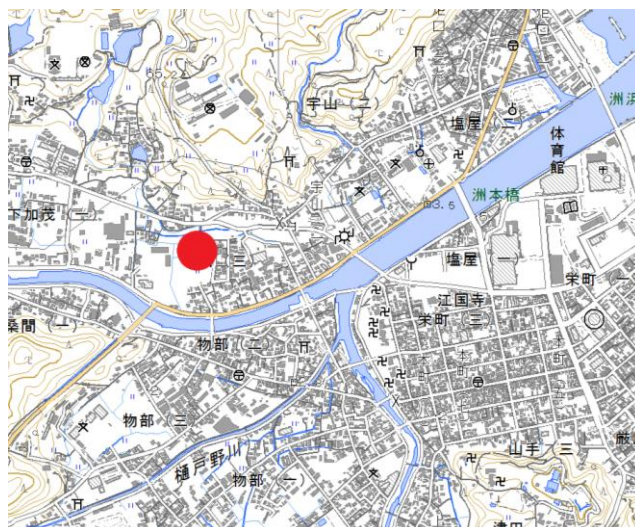


福田小川原遺跡 (A-1、B-1・2、A-2区北) 調査区位置図と遺構配置図

うやま
11 宇山遺跡

遺跡調査番号 2019038

所在地 洲本市宇山
事業者名 国土交通省近畿地方整備局
兵庫国道事務所
事業名 一般国道 28 号洲本バイパス事業
担当者 山上雅弘・西山昌孝
種別 本発掘調査
期間 令和元年 7 月 1 日～10 月 30 日
面積 本発掘調査 1,408 m²
確認調査 8 m²



遺跡の位置（「洲本」）

1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所では上記事業を計画し、事業対象箇所について平成 2 年度より兵庫県教育委員会が分布調査および確認調査を実施し、埋蔵文化財が確認されたので本発掘調査を実施することとなった。本発掘調査は上記事務所から県教育委員会への依頼に基づき（公財）兵庫県まちづくり技術センターが実施した。なお、本発掘調査開始時に確認調査の未実施部分が残されたため、本事業で確認調査（2019058）を実施し、埋蔵文化財が確認されたので合わせて本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査は 1 区～5 区の 5 地区に分割して実施した。この結果、2 区～4 区を中心とする地区で平安時代～鎌倉時代、3 区で弥生時代の集落が見つかった。これに対して北端の 1 区は地形的に低い影響で、湿地性の軟弱な土層が堆積し、南端の 5 区も地形的に低く、少量の遺物が出土し水田面を確認した他に遺構は検出できなかった。以上のことからここでは 2 区・3 区・4 区について詳述する。

【2 区】

本地区が平安時代～鎌倉時代の集落遺跡の中心となる。検出した遺構は掘立柱建物跡 7 棟、土壇墓 1 基、柱穴・鍛冶炉・土坑・溝・埋甕土坑がある。これらは時期的には①平安時代中頃（11～12 世紀）と②鎌倉時代（13 世紀前半）の 2 時期に大きく分かれるが、このうち②の時期については調査区南側で黒褐色シルト層の堆積が厚く、下層にも柱穴などを確認した。このため②については 2 面の調査を行った。

集落遺跡のうち①11～12 世紀（平安時代）は調査区の北側、②の後者の遺構群（鎌倉時代）は調査区の南側が中心となるので、時期によって集落の中心は場所を移動するようである。

出土遺物には黒色土器碗・瓦器碗・皿、土師器碗・皿・台付皿・鍋・甕、須恵器甕・皿・捏鉢、瓦質土器片、白磁碗・皿、青磁碗、瀬戸製品、緑釉碗などの土器類や少量の瓦がある。この他、鍛冶関係の遺物として碗形滓・鉄滓・鞆の羽口、金床石・砥石なども出土している。



掘立柱建物跡群全景（2区南側・南から）



掘立柱建物跡 SB04・SX01（南から）



八稜鏡が出土した SB04P158（西から）



八稜鏡

① 11～12 世紀の集落遺構 掘立柱建物跡 SB04・土壇墓 SX1 が中心である。

SB04 この建物は身舎が桁行 4 間×梁行 3 間で、南辺に底を持つ（8.7m×7.3m）。総柱構造の建物で、面積 63.5 m²、建物方位は南北方向に軸を持つ。柱並びが比較的良好であるが北西辺や、東柱に不揃いな箇所が目立つ。

また、柱穴内部には地鎮めとして埋納された黒色土器碗・土師器皿などが多く出土している。このうち P158 からは八稜鏡 1 面が出土した。半分に折損されたもので、柱を抜き取り後に埋納したもので、裏面を上にしてほぼ水平に置かれていた。

八稜鏡は直径 9 cm、重さ 36 g を測るもので裏面に瑞花双鳥文様を施す。鏡の文様形態から 10～11 世紀頃に制作されたものと考えられる。淡路島において八稜鏡は下内膳遺跡（洲本市）・日岡山（南あわじ市）の 2 例がこれまで知られており、本例が 3 例目となる。

SX01（土壇墓） SB04 の西側に隣接して検出した。屋敷墓と考えられる遺構である。長軸 1.1m、幅 0.5m を測る。墓壇上に炭層が存在し、その上面に礫を据えていた。内部から黒色土器碗などが出土したことから SB04 と同時期と考えられる。

② 13 世紀（鎌倉時代）の集落遺構 この時期の遺構は南側に集中するが、重なる建物があるので、何時期かの変遷が考えられる。検出した遺構には掘立柱建物跡 6 棟、鍛冶炉、土坑・溝などがある。

SB01 東西 5 間、南北 5 間、検出範囲における規模は 72 m² で、今回の調査では最大の建物で、この時期の建物群では中心的な位置を占める。

S B02 桁行 3 間×梁行 2 間 (5.8×4.3m) の東西棟である。東側の東柱のみを検出した。柱並びが比較的良好で、柱間は 2m 前後となる。柱穴内からは瓦器を中心に多くの土器片が出土している。

S B03 桁行 3 間×梁行 1 間以上 (5.6×1.5m 以上) の東西棟である。建物の北側部分のみを検出したもので、大半が調査区外にある。南側の 4 区まで続く建物であれば梁行 3 ないし 4 間 (南北 8.5×東西 7.0m) の規模となる。

SK90 (鍛冶炉) 調査区の南端で検出した鍛冶炉跡である。南側の円形の土坑と、北側の楕円形を呈する焼土坑からなる。規模は南側が長さ 0.23m (残存長)、幅 0.53m、北側は長さ 0.5m (残存長)、幅 0.5m を測る。南側の土坑には被熱した礫・鉄片・鉄滓・鍛造薄片などが含まれる。時期は土坑直上から瓦器が出土しているため、13 世紀代と思われる。この他、鍛冶炉に関係した遺物として鞆の羽口や鉄滓があり、周辺の柱穴には折損した金床石を投げ込まれていた。



鍛冶炉 (4 区)



鞆の羽口

【3 区】

調査の結果、竪穴住居跡 1 棟・柱穴・土坑・溝を検出した。出土した遺物には弥生時代後期末の甕・高杯、古墳時代の小型丸底壺、奈良時代前後の土師器杯・須恵器杯・壺、平安時代の黒色土器碗などバラエティーに富むものが含まれるが本地区周辺が最も長期にわたって遺跡が存続した場所と思われる。

竪穴住居跡は一辺、5m 前後の方形住居で弥生時代後期のもので、古墳時代前期の大型土坑 S X01 からは小型丸底壺が出土している。

【4 区】

調査区の北半分から柱穴・鍛冶炉・鍛冶炉関連遺構・溝・土坑などの遺構が検出された。この遺構の広がる範囲が、2 区から続く集落の南端に当たる。本地区では SK60 (鍛冶炉) の検出が大きな成果である。いくつかの土坑や焼土面が検出されたが確実に炉跡と判別できるものは 1 基である。炉跡周辺に絡んで瓦器碗が出土していることから本遺構も 13 世紀のものと判断される。この他、炉跡の周辺からは関連の土坑などの鍛冶工房の痕跡が見つかった。周辺の東西 2.3m、南北 1.3m の範囲からは碗形滓・鉄滓や鞆の羽口片などが多数出土している。

3 まとめ

洲本川下流域において、平安時代中頃～鎌倉時代を中心とする集落および弥生時代の集落が調査地区中央に立地する微高地頂部に立地することがわかっている。ただし集落は平安時代が 2 区中央、鎌倉時代が 2 区南側および 4 区北半、弥生時代が 3 区を中心に立地するもので時期ごとに変遷が見られた。

このほか、2 区南東から 3 区には古墳時代および古代の遺構・遺物も出土しているのでこの微高地では長期にわたって集落が営まれていたと思われる。つまり集落は微高地全体に広がるのではなく時代ごとに部分的な変遷をたどりながら維持されていたのである。

第3章 出土品整理事業の概要

出土品整理については全て（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託し、兵庫県立考古博物館及び同魚住分館にて作業を行った。実施した作業は水洗い、ネーミング、接合・補強、復元、実測、写真撮影、図面補正、トレース、レイアウト、保存処理、分析鑑定、報告書印刷であり、このうち写真撮影と分析鑑定についてはまちづくり技術センターから専門業者に委託して実施した。

令和元年度に出土品整理を実施した事業は次ページの表のとおり 21 件であり、内訳は国事業 8 件、県事業 12 件、町事業 1 件である。このうち 6 件については最終年度として発掘調査報告書を刊行した。



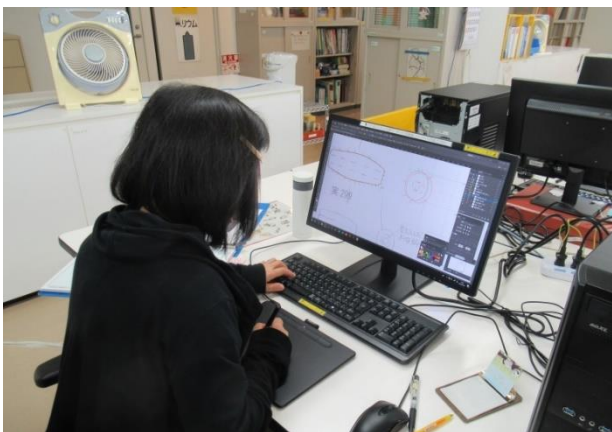
刊行報告書



実測



復元



トレース



写真撮影

	事業者	事業名	遺跡名	報告書 冊番号
1	国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所	175号西脇北バイパス事業	津万遺跡群 1	
2			津万遺跡群 4	
3			津万井近世窯跡	
4		国道2号明石駅前交差点改良事業	明石城武家屋敷	
5	国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	一般国道483号北近畿豊岡自動車道 八鹿豊岡南道路	藤井古墳群	
6			南構古墳群	
7			定谷遺跡	
8	国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所	一般国道2号バイパス改築事業	池ノ下遺跡	
9	兵庫県阪神南県民 センター 西宮土木事務所	猪名川流域下水道事業	原田西遺跡	第509冊
10		都市計画道路事業（園田西武庫線）	塚口山廻遺跡	第510冊
11	兵庫県北播磨県民局 加東土木事務所	（主）三木三田線 道路事故防止対策事業	志染中梨木遺跡	第511冊
12		（一）黒田庄多井田線 道路改良事業	喜多・城山城跡	第512冊
13		（一）中安田市原線 交差点改良事業	前島・検上田遺跡	第513冊
14	兵庫県中播磨県民 センター 姫路土木事務所	（二）船場川水系船場川 流域治水対策河川事業	竹の前遺跡	第514冊
15	兵庫県西播磨県民局 龍野土木事務所	（主）太子御津線 社会資本整備総合交付金事業	鍛冶田遺跡	
16		（国）179号（太子道路）防災・安全交付金事業	鵜遺跡	
17	兵庫県西播磨県民局 光都農林振興事務所	県単独緊急防災事業	竹原9号窯	
18	兵庫県但馬県民局 養父土木事務所	（急）上地(3)地区急傾斜地崩壊対策事業	音谷1号墳	
19	兵庫県丹波県民局 丹波土木事務所	（国）372号丹南バイパス道路改良事業	波賀野遺跡・波賀野西遺跡	
20	兵庫県淡路県民局 洲本土木事務所	上加茂バイパス建設事業	宮ノ谷遺跡	
21	新温泉町	新温泉町新残土処分場整備事業	和泉谷・津原古墳群	

第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）

1 事業の概要

平成29年度より、市町教育委員会の埋蔵文化財発掘調査を支援するために、「市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業」を開始した。この事業は発掘調査量の一時的な急増に伴う人員の不足や、経験の少ない職員の技能向上など、市町教育委員会が抱える課題に対して支援をおこなうものである。事業は（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が県教育委員会文化財課・県立考古博物館との連携・協力により実施した。

2 発掘調査の支援

【概要】

市町が実施する発掘調査について、センターが現場運営・監理業務を受託し、支援をおこなう事業である。センター職員は「支援調査員」として、発掘現場における掘削、測量、写真撮影の各業務をおこなうとともに、市町職員の技術指導をおこなった。

【令和元年度実施事業】

令和元年度は洲本市委託の1件の事業を実施した。調査は洲本市教育委員会の職員とセンターのベテラン職員が共同で行い、洲本市職員の技能向上を図りながら調査が円滑に進行するよう支援を行った。

事業名	宮の西遺跡・宮ノ前遺跡・縄手遺跡発掘調査支援業務
遺跡名	宮の西遺跡・宮ノ前遺跡・縄手遺跡（洲本市五色町都志大宮）
起因事業	農業基盤整備事業（経営体育成型）（兵庫県淡路県民局洲本土地改良事務所）
委託者	洲本市
調査期間	令和元年11月11日～令和2年3月19日（44日間）
調査面積	宮の西遺跡 451㎡、宮ノ前遺跡 296㎡、縄手遺跡 252㎡ 合計 999㎡
調査概要	<p>【宮の西遺跡】</p> <p>4区から古墳時代の土坑と土器を検出した。1～3区からは時期が特定できないピット・溝を検出した。包含層からは古代を中心に弥生時代・古墳時代の遺物が出土し、特に古代の製塩土器が目立った。古代の製塩土器の出土は、淡路島西浦沿岸では初めてのものとなった。5区からは13世紀前半の柱穴や土坑を検出し、瓦器を中心とした土器が出土した。当時の東福寺領荘園の様相の一端を考える上で貴重な調査となった。</p> <p>【宮ノ前遺跡】</p> <p>古墳時代前期の柱穴、時期が特定できないピット・土坑・溝を検出した。包含層からは古墳時代前期を中心とする多くの遺物が出土した。他に弥生時代の土器やサヌカイト製の石鏃も出土した。集落の中心は周辺にあると考えられる。</p> <p>【縄手遺跡】</p> <p>弥生時代後期の溝、土坑を検出した。遺物は弥生時代前期の物もあり、弥生時代から古墳時代にかけて集落が営まれていたと考えられる。</p>

3 市町職員研修

【概 要】

市町等の埋蔵文化財担当職員の資質向上をはかるため、兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館との連携・協力により、業務の遂行に必要な知識・技術に関する研修及び発掘調査成果連絡会を実施した。

【埋蔵文化財担当職員研修（基礎研修）】

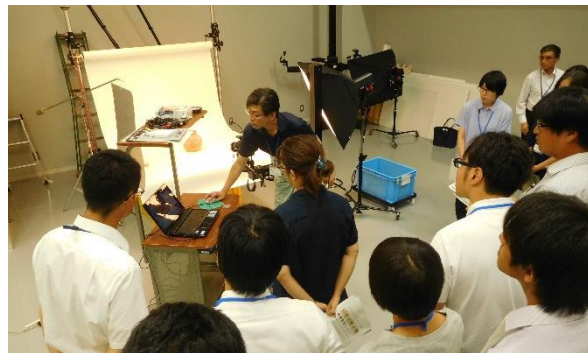
内 容 出土品整理・報告書作成（講義・実習
テーマ・講師は下の表のとおり）

日 時 令和元年 9 月 12 日（木）～13 日（金）

対 象 採用後概ね 5 年以内の市町等埋蔵文化財担当職員

会 場 兵庫県立考古博物館 体験学習室 3
を中心に整理室・写場

参加者 23 名



研修状況

	テーマ	講 師
講義 1	出土品整理の目的と意義	永恵裕和（兵庫県教育委員会文化財課主任）
講義 2	出土品整理の流れ	多賀茂治（（公財）兵庫県まちづくり技術センター整理保存課長）
講義 3	出土品整理計画の策定	菱田淳子（兵庫県立考古博物館埋蔵文化財課課長補佐）
講義 4	発掘調査報告書の構成と内容	篠宮 正（（公財）兵庫県まちづくり技術センター調査第 2 課長）
実習 1	脆弱遺物の一時保管と保存処理	大本朋弥（（公財）兵庫県まちづくり技術センター技術職員）
実習 2	遺物写真の撮影	深江英憲（（公財）兵庫県まちづくり技術センター副課長）
実習 3	デジタル機器による現像、製図、編集	大嶋昭海（（公財）兵庫県まちづくり技術センター技術職員）
講義 5	報告書印刷	深江英憲（（公財）兵庫県まちづくり技術センター副課長）
講義 6	埋蔵文化財を地域の中で活かそう	山下史朗（兵庫県教育委員会文化財課長）

【埋蔵文化財調査成果連絡会】

日 時 令和元年 11 月 29 日（金）

対 象 市町等埋蔵文化財担当職員

会 場 兵庫県立考古博物館 講堂

参加者 100 名

	テーマ	講 師
報告 1	神戸市北区：松原城跡の調査	佐伯二郎（神戸市教育委員会）
報告 2	姫路市：豊沢遺跡 明らかになりつつある拠点的な弥生集落	福井 優（姫路市教育委員会）
報告 3	豊岡市：耳谷草山古墳群の発掘調査	大嶋昭海（（公財）兵庫県まちづくり技術センター）
報告 4	高砂市：高砂町遺跡 南堀川跡の発掘調査	奥山 貴（高砂市教育委員会）
基調報告	兵庫県文化財保存活用大綱 について	田中康弘（兵庫県教育委員会文化財課）
事例報告	近年の文化財行政－神河町の現状より－	竹国よしみ（神河町教育委員会）

第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要

1 現地説明会の開催

発掘作業の現場で現地説明会を開催し、発掘現場を体感する機会を提供している。令和元年度は6遺跡で12回の現地説明会を開催し、延べ1,197名の方が参加した。

遺 跡 名	所 在 地	開 催 日	参加者数
才村遺跡	姫路市	令和元年6月29日（土）	104人
宗佐遺跡	加古川市	令和元年7月27日（土）午前・午後2回	93人
玉津田中遺跡	神戸市西区	令和元年10月14日（月・祝）	45人
宇山遺跡	洲本市	令和元年12月14日（月・祝）	127人
宇山遺跡	洲本市	令和元年12月16日（水）	49人
前田遺跡	姫路市	令和元年10月20日（日）	137人
才村遺跡	姫路市	令和元年10月20日（日）	147人
才村遺跡	姫路市	令和元年12月8日（日）午前・午後2回	240人
関ノ口遺跡	姫路市	令和2年1月11日（土）	55人
玉津田中遺跡	神戸市西区	令和2年1月26日（土）	200人
合 計			1,197人



宗佐遺跡



前田遺跡

2 発掘調査速報パネル展示

県立考古博物館の来館者を対象にネットワークひろばで、現地説明会の内容と写真パネルを展示ボードに掲示し、現地説明会資料を配付した。1年間で1,200部の資料を配付した。



発掘調査速報パネル展示

3 GENBAビューイングの開催

ICT機器を活用して、発掘調査現場等と県立考古博物館を中継し、リアルタイムで双方向による質疑応答を行うなど、発掘調査の状況を体感できるGENBAビューイングを（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と県立考古博物館の共催により実施した。

令和元年度は7月に1回（加古川市宗佐遺跡）と1月に1回（神戸市西区玉津田中遺跡）の合計2回実施した。

遺 跡 名	所在地	開催日	参加者数
宗佐遺跡	加古川市	7月27日（土）	25人
玉津田中遺跡	神戸市西区	1月26日（日）	48人
合計			73人



現場での撮影状況（宗佐遺跡）



県立考古博物館での中継状況

4 メインホール展示

発掘調査で話題となった遺物を県立考古博物館のメインホールで、（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と県立考古博物館の共催により実施した。



展示の様子

5 発掘調査速報会の開催（中止）

令和年度に実施した発掘調査成果の発表、討論会を行うなど、最新の調査成果を広く県民に公開するための発掘調査速報会の開催を令和2年3月8日（日）に予定し準備を進めたが、新型コロナウイルス対策実施方針により中止した。

6 ひょうごの遺跡の刊行

(公財) 兵庫県まちづくり技術センターでは、埋蔵文化財情報誌「ひょうごの遺跡」100号・101号を刊行し、最新の発掘調査の成果を公開した。

「ひょうごの遺跡」100号（令和元年10月4日発行）

創刊100号記念

- ・ ひょうごの遺跡100号のあゆみ
- ・ 竪穴住居、続々とー前田遺跡（姫路市）
- ・ 弥生時代から現代まで続く集落ー宗佐遺跡（加古川市）
- ・ ムラの姿が明らかに？ー才村遺跡（姫路市）
- ・ 発掘調査あれこれ⑤ 暑さとたたかう発掘現場！

「ひょうごの遺跡」101号（令和2年3月8日発行）

- ・ 縄文文化を色濃く残す弥生時代の集落ー玉津田中遺跡（神戸市西区）
- ・ 水を汲む井戸、マツリの井戸ー前田遺跡（姫路市）
- ・ 井戸底に込められたおもいー才村遺跡（姫路市）
- ・ 洲本川下流からの中世への始動ー宇山遺跡（洲本市）
- ・ 加古川右岸に広がる集落跡ー上戸田遺跡（西脇市）
- ・ 林田川左岸沖積地の集落跡ー福田小川原遺跡（たつの市）
- ・ 発掘調査あれこれ⑥ 遺構の切り合い



7 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡」の実施

兵庫県まちづくり技術センターの事業を一般県民にPRすると共に、考古学に興味を持ってもらい埋蔵文化財保護について理解を得るために実際の発掘現場において、自分の手で古代の土器を掘り出す体験を実施した。令和元年11月23日（土・祝）に 才村遺跡（姫路市）で実施し、36名の参加があった。



発掘体験の様子

8 バックヤード見学ツアーの開催

収蔵庫や出土品整理室など博物館の舞台裏を見学するツアーを、県立考古博物館と（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部の共催で、夏休み期間中に開催した。

令和元年度はバックヤード見学ツアーを3回、土器接合体験・保存処理体験・拓本体験を組み合わせたこどもスペシャルツアーを1回実施した。

	実 施 日	見学ツアー	スペシャルツアー	参加者小計
第1回	令和元年 7 月 31 日（水）	23 名	－	23名
第2回	令和元年 8 月 7 日（水）	－	13人	13名
第3回	令和元年 8 月 21 日（水）	11 名	－	11名
第4回	令和元年 8 月 28 日（水）	33 名	－	33名
合 計				80 名



バックヤード見学ツアーの様子

令和元年度埋蔵文化財調査年報

発行日 令和 2（2020）年 12 月 27 日

編 集 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

発 行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142

兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1－1

TEL 079-437-5589 FAX 079-437-5599

<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>
